

授業外学修時間及び学修行動に関する調査報告

2024 年 09 月

駿河台大学 IR 実施委員会

1. 概要

教育の質の向上の一環として、「学生の主体的な学修」の涵養が求められている中で、本学においては、学生委員会が実施する「学生生活基本調査」において、学修時間や学修行動等に関する設問を設けて調査を行い、その結果をホームページ等で学内外に公表しています。

今回の調査では、学生の学修時間や学修行動について、前年度以前の調査と比較したうえで、学生の状況を認識するとともに、教育活動の妥当性を検討するための基礎資料として活用するために、とりまとめました。

2. 集計・分析

(1) 2023 年度学生生活基本調査の概要

実施期間：2023 年 10 月 9 日（月）から 11 月 30 日（木）まで

調査対象者：全学部・全学年の学生 4,229 名

調査方法：全学年ゼミの授業の中で調査依頼。回答は、C-learning システム上で回答

回答総数：1,687 名（回答率 39.9%）

参考：2022 年度回答率 50.6%、2021 年度回答率 23.4%、2020 年度回答率 10.7%、2019 年度回答率 49.1%

学部	1 年	2 年	3 年	4 年	計
法	145 (59.9%)	105 (45.1%)	114 (43.7%)	68 (26.8%)	432 (43.6%)
経済経営	100 (38.6%)	110 (45.8%)	108 (41.7%)	93 (32.3%)	411 (39.3%)
メディア情報	46 (28.9%)	49 (29.9%)	36 (21.1%)	22 (12.6%)	153 (22.9%)
スポーツ科学/現代文化	159 (71.0%)	132 (54.8%)	79 (34.6%)	25 (12.1%)	395 (43.9%)
心理	105 (65.6%)	84 (54.2%)	63 (47.0%)	44 (25.3%)	296 (47.5%)
計	555 (53.2%)	480 (46.5%)	400 (38.0%)	252 (23.0%)	1687 (39.9%)

2023 年度調査の回答率は 39.9%で前年度よりも 10%以上低下しました。なお、過年度生のみが在籍している現代文化学部生の回答者は 0 名でした。

また、学部別では、心理学部、スポーツ科学/現代文化学部及び法学部は 40%台でしたが、メディア情報学部は 22.9%と上記 3 学部よりも 20%以上回答率が低くなっています。

学年別では、例年通り学年が高くなるにつれて回答率が低くなっています。

3. 学修時間に関する結果概要

(1) 学生生活基本調査における学修時間該当設問

設問 12 あなたは、授業以外の学修に週に平均どの位の時間をかけていますか。

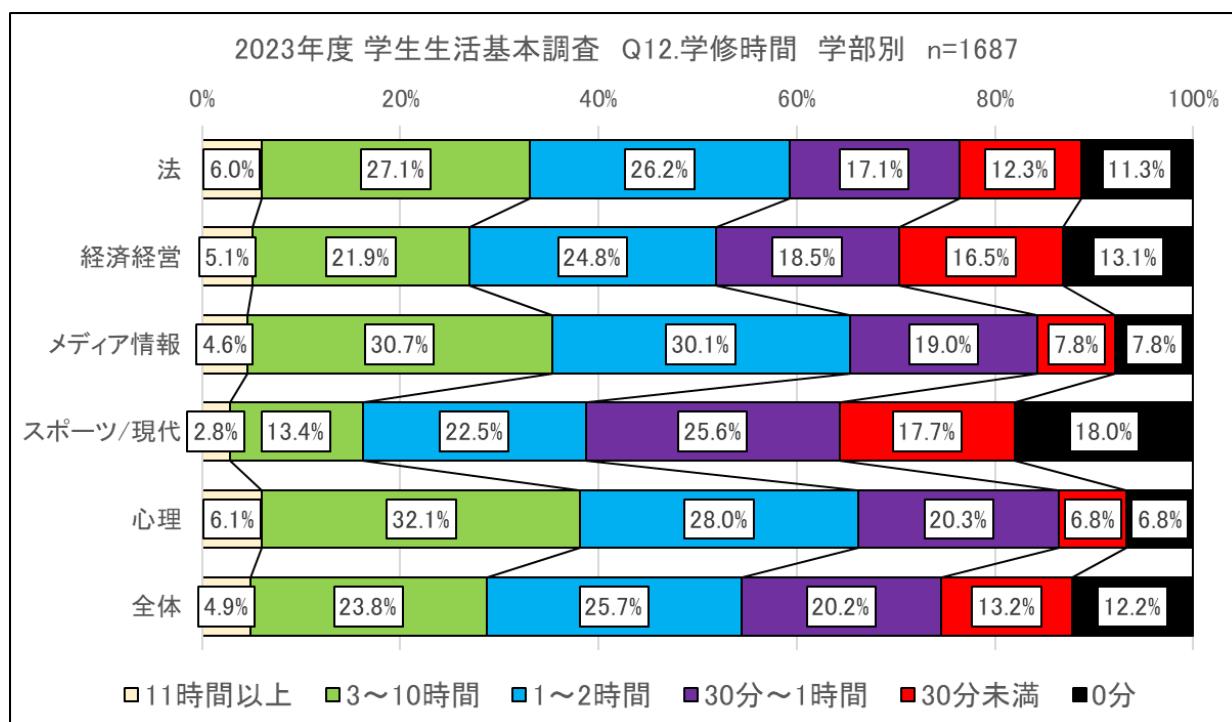
20 時間以上	16～20 時間	11～15 時間	6～10 時間	3～5 時間
1～2 時間	30分～1 時間	30分未満	0 分	

コロナ禍の 2020 年度では、1 時間以内が全学部で全体の 23%に低下しましたが、2022 年度は 43%、2023 年度は 45%でコロナ禍以前に戻りつつあります。

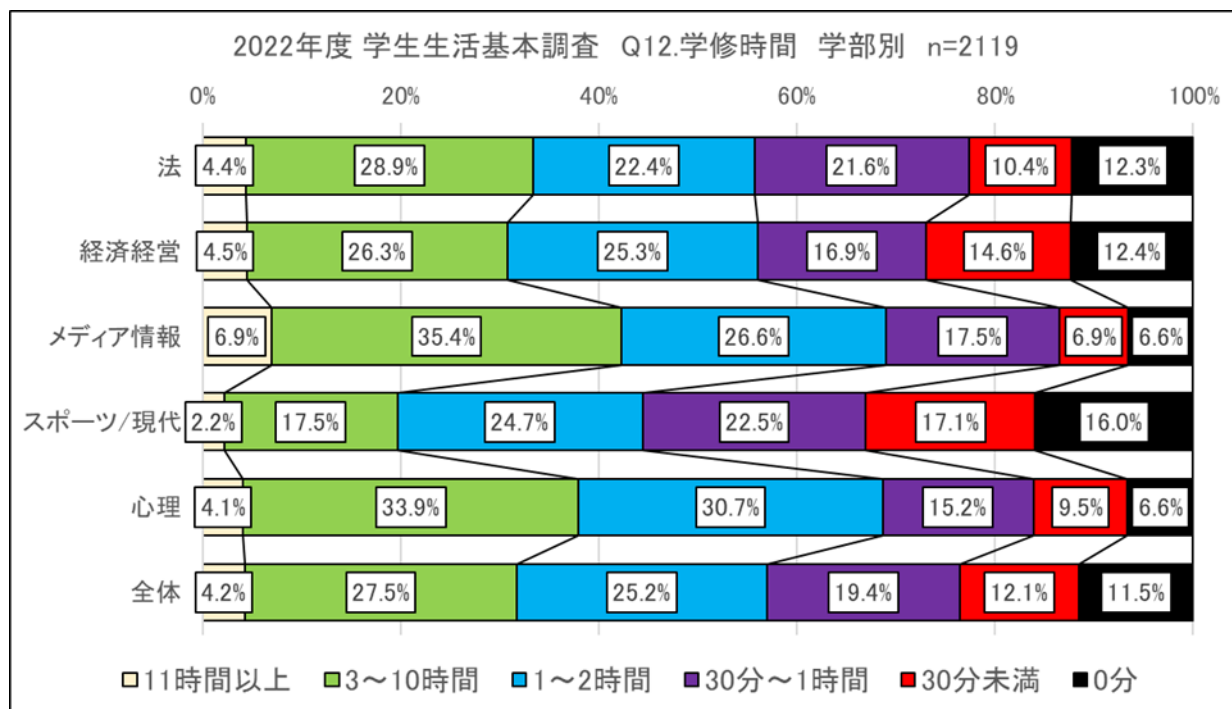
同様に、学修時間が 3 時間以上の割合は、2020 年度は 51%と割合が高くなりましたが、2022 年度は 32%、2023 年度は 29%であり、全体的な傾向として、長い学修時間を選択した層の割合は、コロナ禍の 2020 年度を頂点として低下傾向にあるものの、コロナ禍以前よりはやや高いと言えます。

(2) 学部別集計

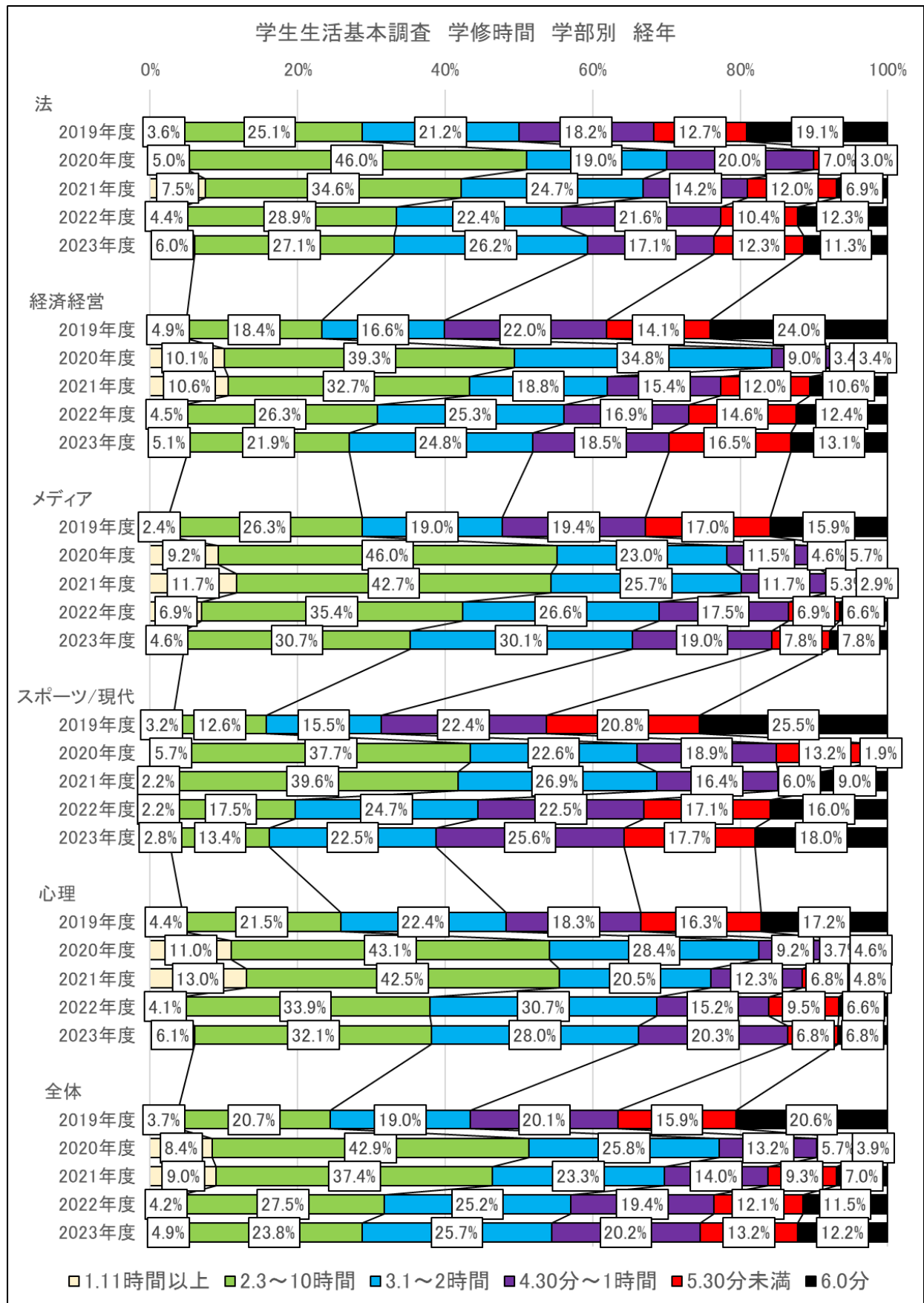
学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）の割合は、スポーツ科学部/現代文化学部が61%で最も高く、心理学部が34%と最も低い結果となりました。一方、学修時間が3時間以上の割合は、心理学部38%、メディア情報学部35%が高く、次いで、法学部・経済経営学部の順でした。



参考) 2022 年度調査



参考) 2019 年度から 2023 年度調査経年比較



学部	11時間以上	3～10時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	0分	計
法							
2019年度	17	117	99	85	59	89	466
2020年度	5	46	19	20	7	3	100
2021年度	25	115	82	47	40	23	332
2022年度	29	189	146	141	68	80	653
2023年度	26	117	113	74	53	49	432
経済経営							
2019年度	19	72	65	86	55	94	391
2020年度	9	35	31	8	3	3	89
2021年度	22	68	39	32	25	22	208
2022年度	19	110	106	71	61	52	419
2023年度	21	90	102	76	68	54	411
メディア							
2019年度	7	76	55	56	49	46	289
2020年度	8	40	20	10	4	5	87
2021年度	20	73	44	20	9	5	171
2022年度	19	97	73	48	19	18	274
2023年度	7	47	46	29	12	12	153
スポーツ/現代							
2019年度	12	48	59	85	79	97	380
2020年度	3	20	12	10	7	1	53
2021年度	3	53	36	22	8	12	134
2022年度	10	80	113	103	78	73	457
2023年度	11	53	89	101	70	71	395
心理							
2019年度	15	74	77	63	56	59	344
2020年度	12	47	31	10	4	5	109
2021年度	19	62	30	18	10	7	146
2022年度	13	107	97	48	30	21	316
2023年度	18	95	83	60	20	20	296
全体							
2019年度	70	387	355	375	298	385	1870
2020年度	37	188	113	58	25	17	438
2021年度	89	371	231	139	92	69	991
2022年度	90	583	535	411	256	244	2119
2023年度	83	402	433	340	223	206	1687

(3) 学年別集計

学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）の割合は、4年次で48%、3年次で46%、2年次で42%、1年次で48%でした。一方、学修時間が3時間以上の割合は、4年次で29%、3年次で31%、2年次で30%、1年次で26%となり、1年生がやや低くなっています。

秋学期の履修科目数は1.2年次では10科目を超えていますが、3.4年次生では履修科目数が少なくなり、特に4年次生では必修演習のみの学生がいることも考えると、高学年程、1科目にかける時間の割合は高くなっていること、1年次における学修時間が他の学年に比べて少ないことが挙げられます。

経年では、学部別と同様、いずれの学年についても昨年度より時間数が短くなっています。

2023年度秋学期履修科目数

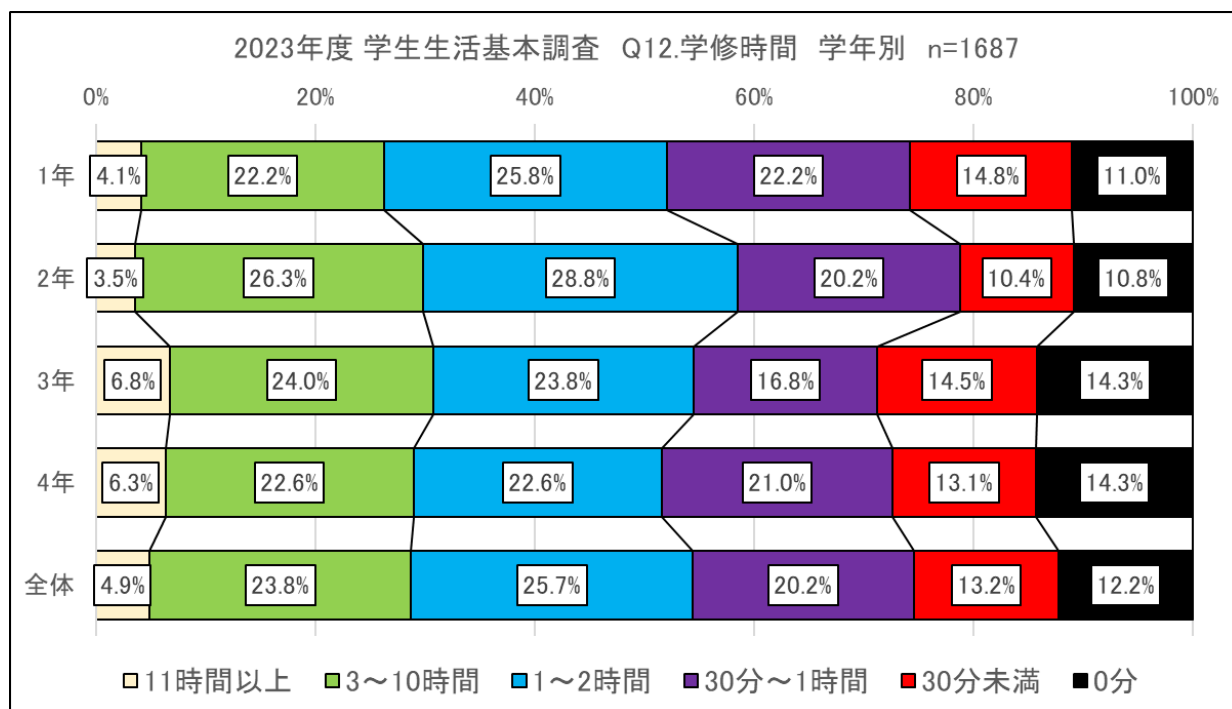
履修科目数	1年	2年	3年	4年	計
01-02科目	0	1	3	568	572
03-04科目	1	4	15	157	177
05-06科目	1	5	97	111	214
07-08科目	3	17	288	45	353
09-10科目	196	223	300	43	762
11-12科目	511	458	246	47	1262
13-14科目	193	167	63	11	434
15科目以上	117	145	22	3	287
計	1022	1020	1034	985	4061

※ 教職課程等卒業要件外科目、単位認定科目も含む

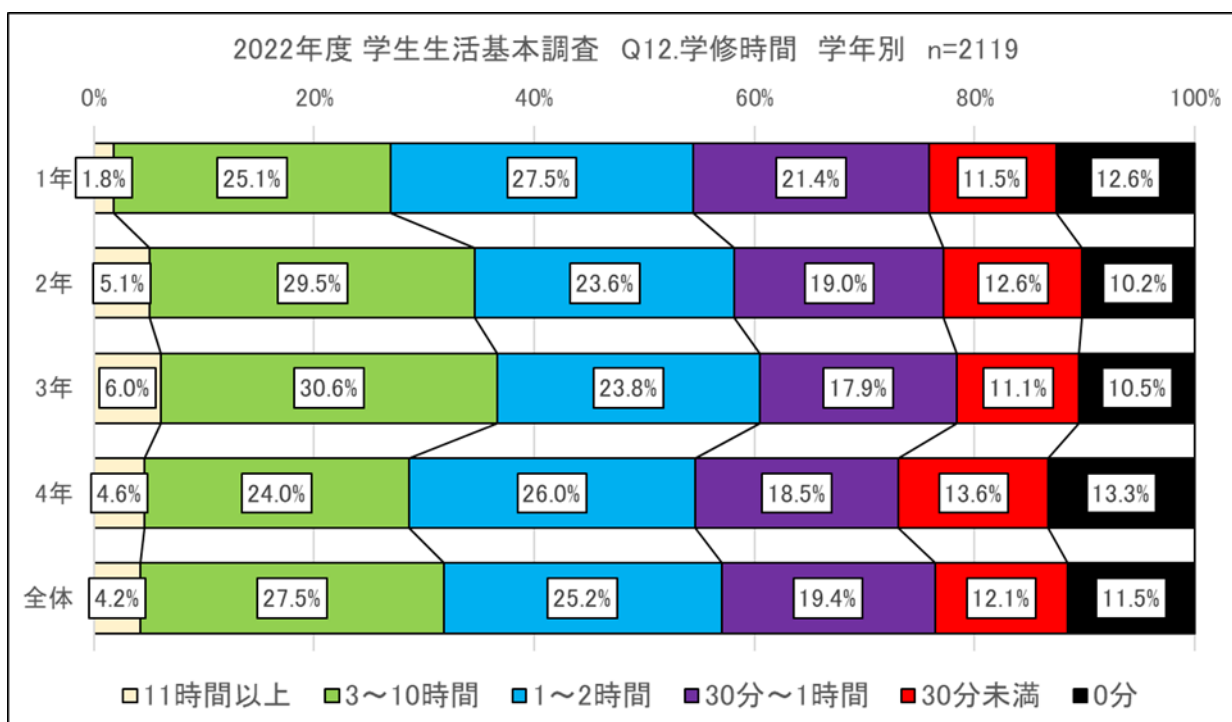
※ 過年度生を除く

2023年度秋学期学部学年別平均履修科目数

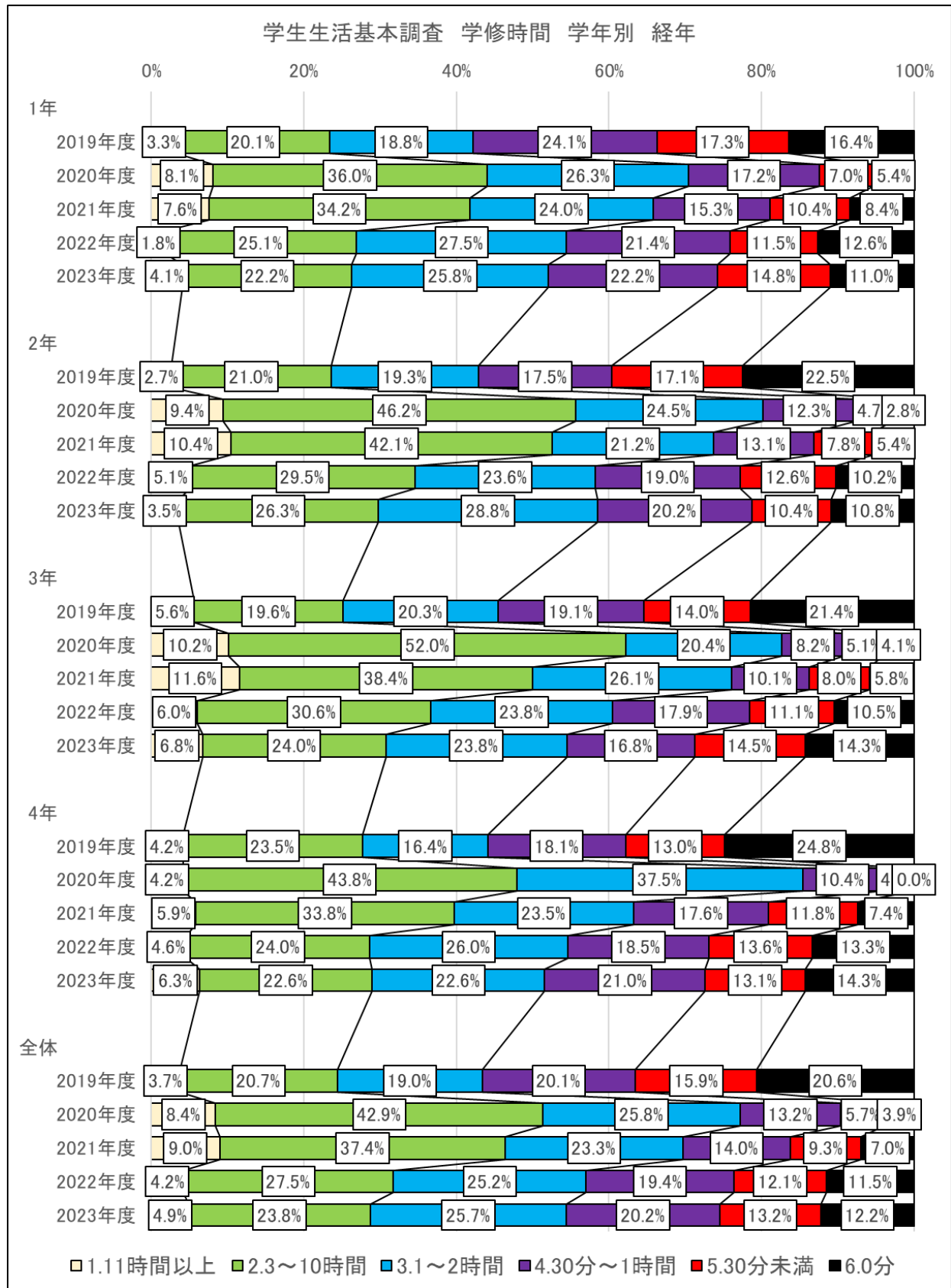
学部	1年	2年	3年	4年	計
法	11.2	11.3	8.9	2.8	8.6
経済経営	11.0	10.6	8.5	2.7	8.2
メディア情報	12.1	10.8	8.2	3.7	8.7
スポーツ科学/現代文化	14.6	15.8	11.2	4.6	11.9
心理	10.6	11.8	9.7	3.2	8.8
計	11.9	12.2	9.3	3.3	9.2



参考) 2022 年度調査



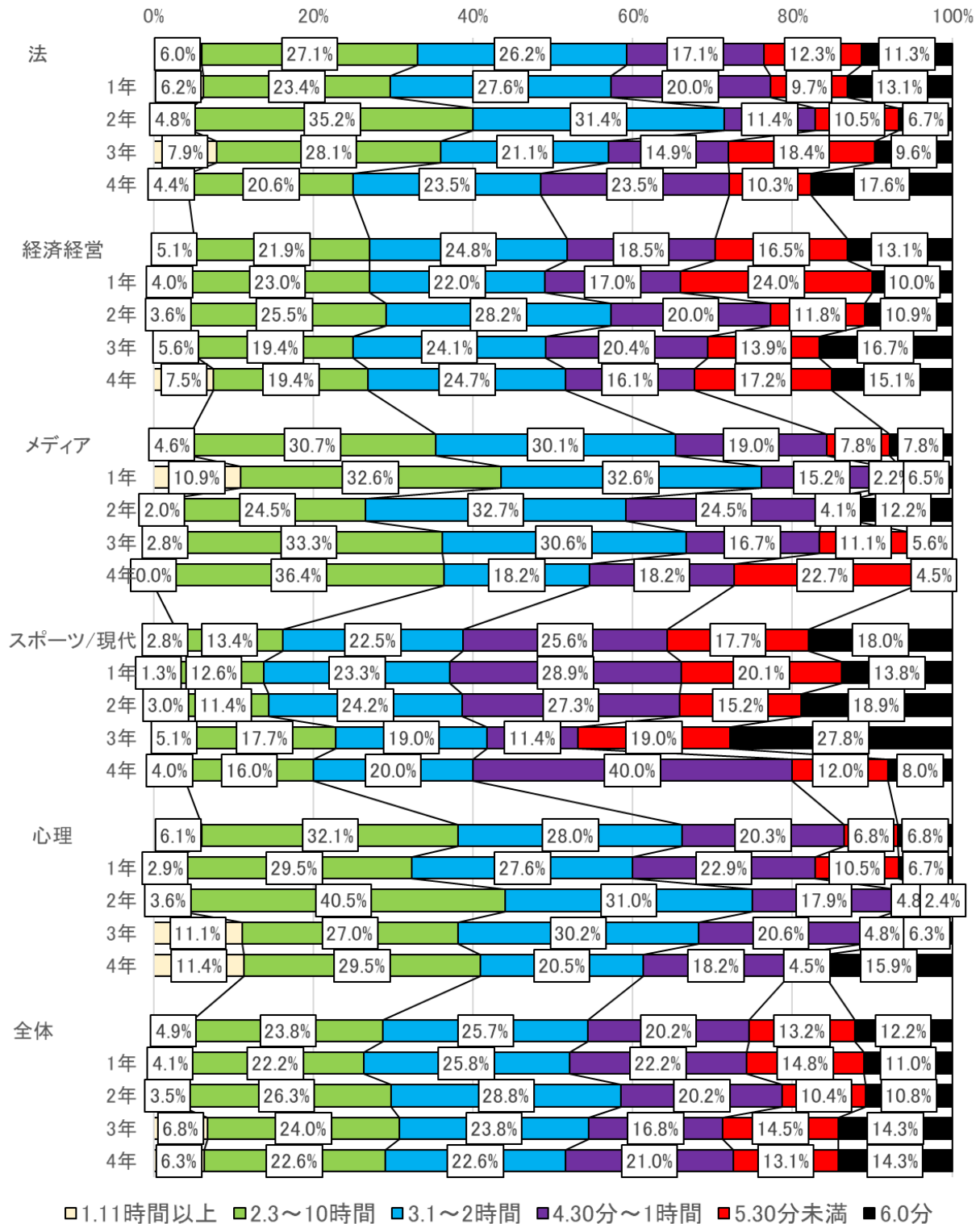
参考) 2019 年度から 2023 年度調査経年比較



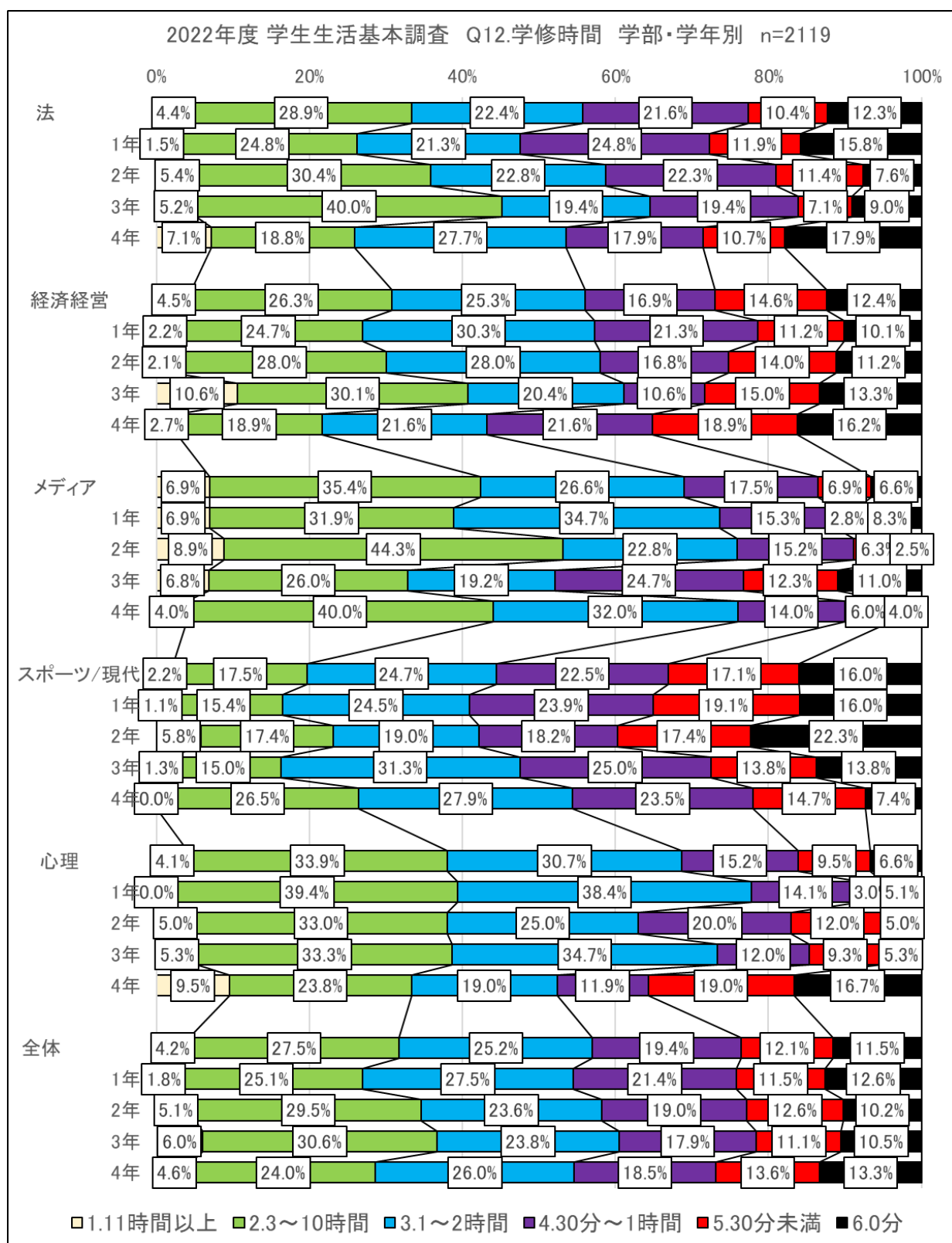
学生生活基本調査 学修時間 学年別 経年

学年	11時間以上	3～10時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	0分	計
1年							
2019年度	20	121	113	145	104	99	602
2020年度	15	67	49	32	13	10	186
2021年度	34	154	108	69	47	38	450
2022年度	12	163	179	139	75	82	650
2023年度	23	123	143	123	82	61	555
2年							
2019年度	16	126	116	105	103	135	601
2020年度	10	49	26	13	5	3	106
2021年度	35	141	71	44	26	18	335
2022年度	32	185	148	119	79	64	627
2023年度	17	126	138	97	50	52	480
3年							
2019年度	24	84	87	82	60	92	429
2020年度	10	51	20	8	5	4	98
2021年度	16	53	36	14	11	8	138
2022年度	30	152	118	89	55	52	496
2023年度	27	96	95	67	58	57	400
4年							
2019年度	10	56	39	43	31	59	238
2020年度	2	21	18	5	2		48
2021年度	4	23	16	12	8	5	68
2022年度	16	83	90	64	47	46	346
2023年度	16	57	57	53	33	36	252
全体							
2019年度	70	387	355	375	298	385	1870
2020年度	37	188	113	58	25	17	438
2021年度	89	371	231	139	92	69	991
2022年度	90	583	535	411	256	244	2119
2023年度	83	402	433	340	223	206	1687

2023年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間 学部・学年別 n=1687



参考) 2022 年度調査

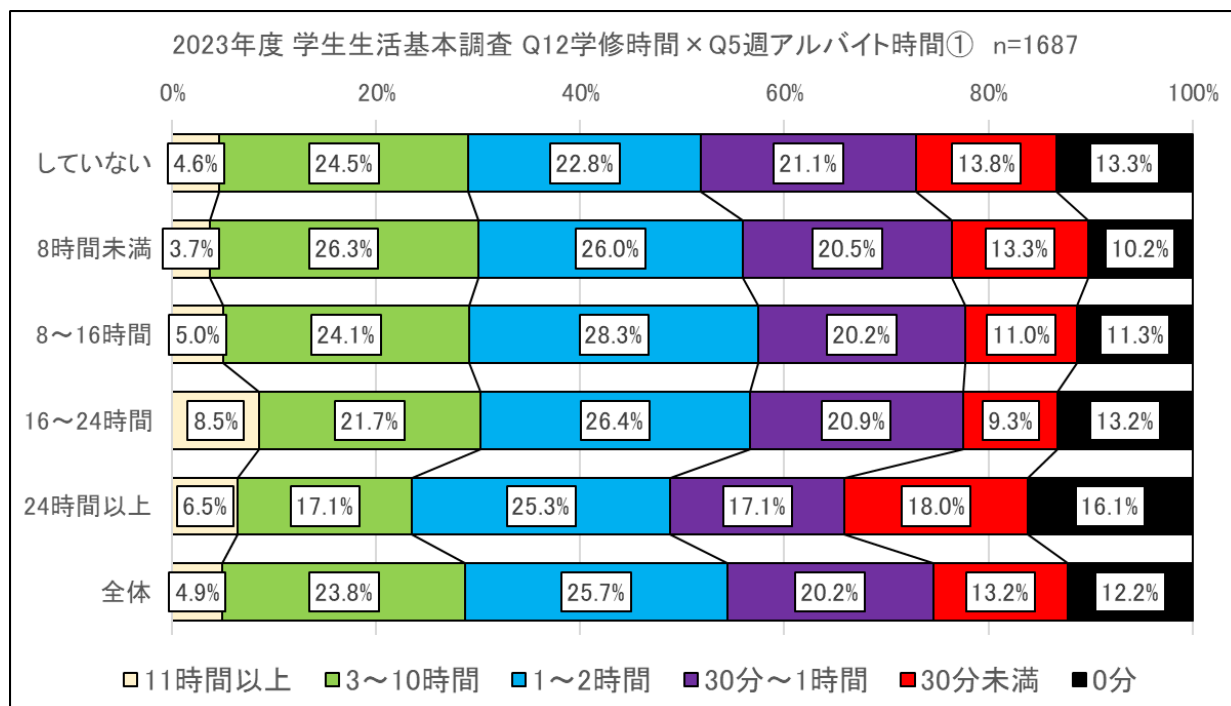


(4) 週当たりアルバイト時間とのクロス集計

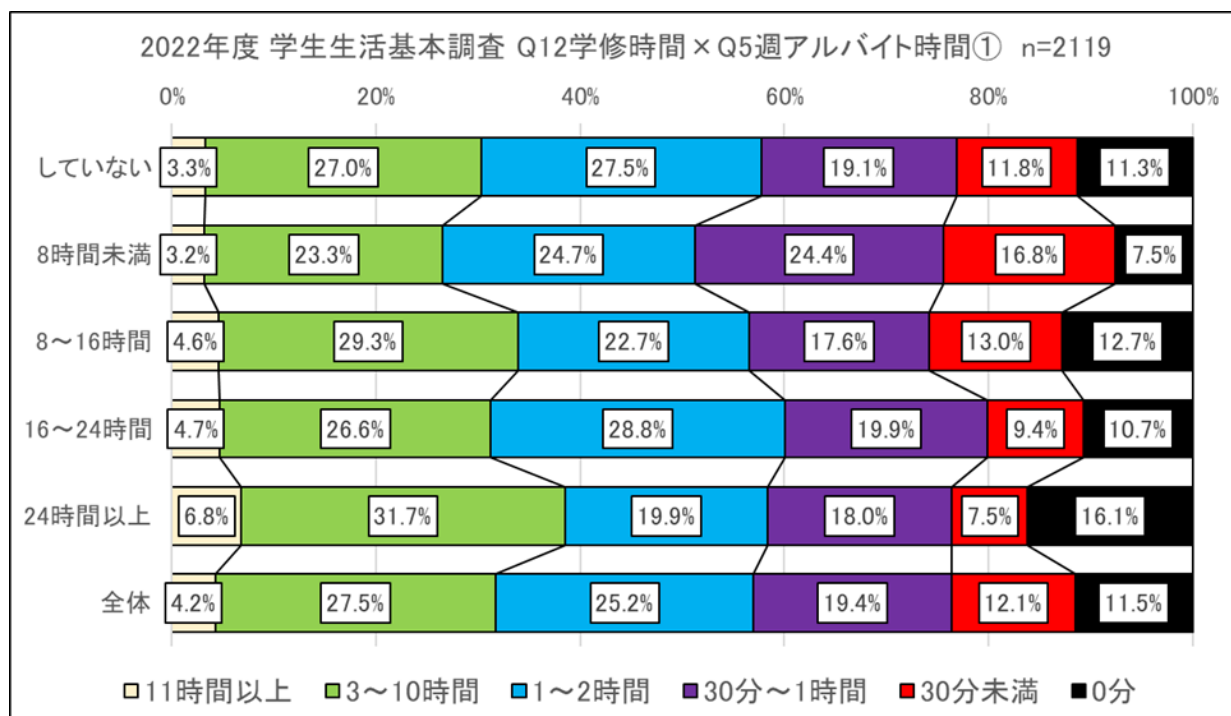
学修時間と週当たりのアルバイト時間についてのクロス集計を行いました。

週当たりのアルバイト時間の構成比は「していない」25%、「8時間未満」32%、「8～16時間」23%、「16～24時間」8%、「24時間以上」13%であり、2022年度調査に比べ、「していない」及び16時間以上を選択した層の割合が低下し、「8時間未満」を選択した者の割合が高くなっています。

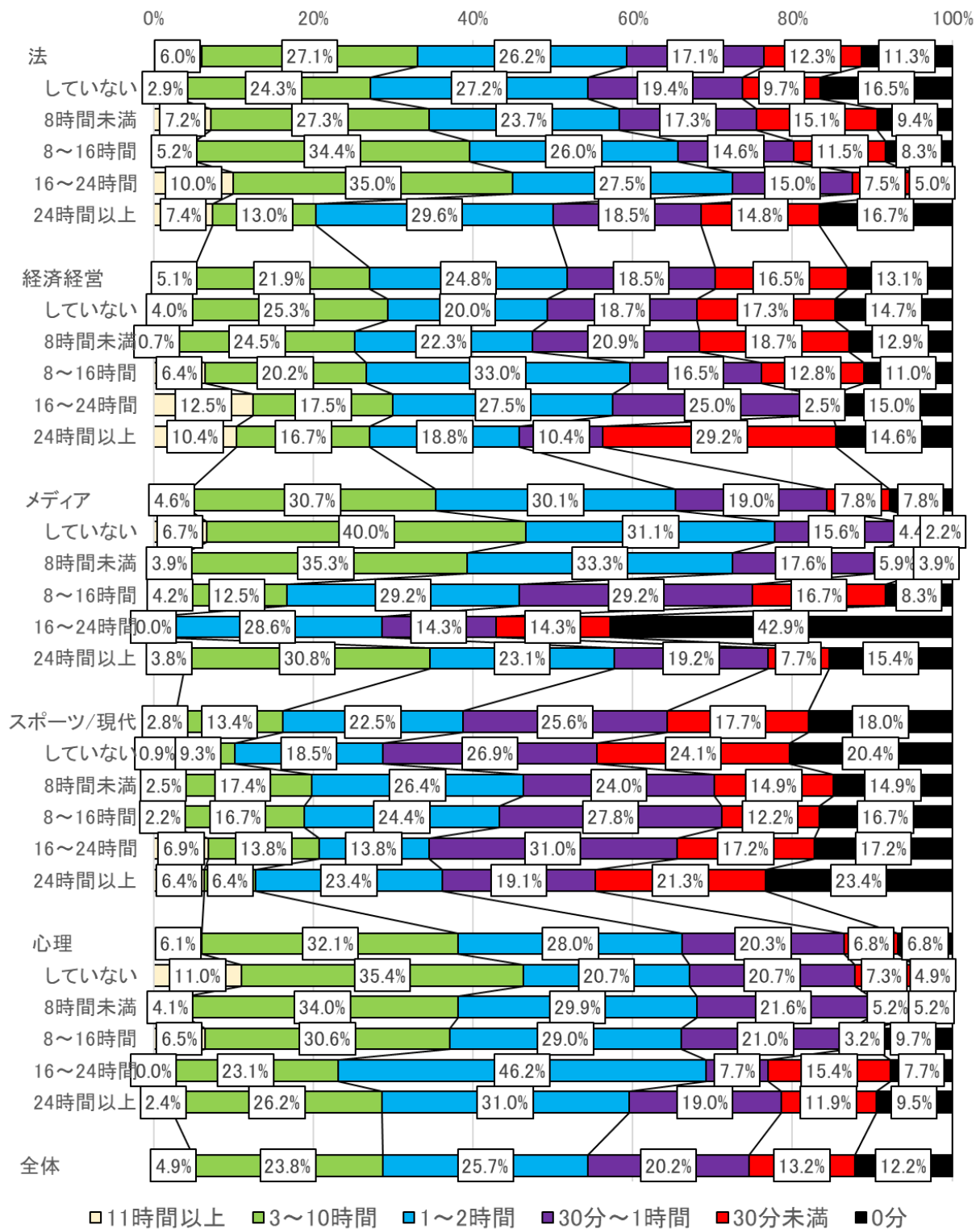
学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）の割合は、コロナ禍以前はアルバイト時間が増えるにつれて、高くなる傾向（2019年度は「0分」のみ該当）が続いていましたが、2020年度以降は「していない」を選択した層で割合が高くなる傾向が続いています。また、学修時間3時間以上の割合は、2022年度調査と異なり、アルバイト時間「24時間以上」が最も低い割合となっています。



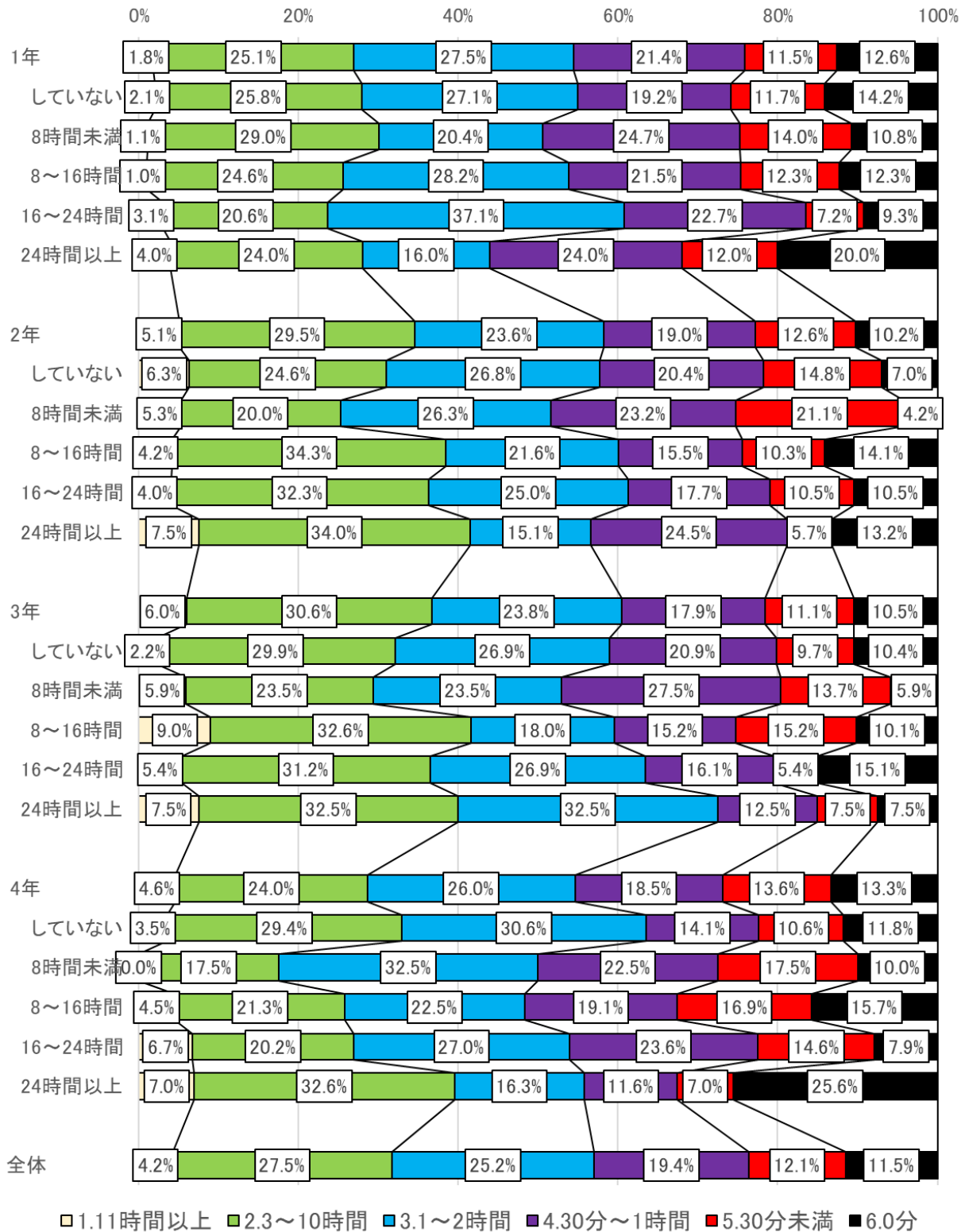
参考) 2022年度調査



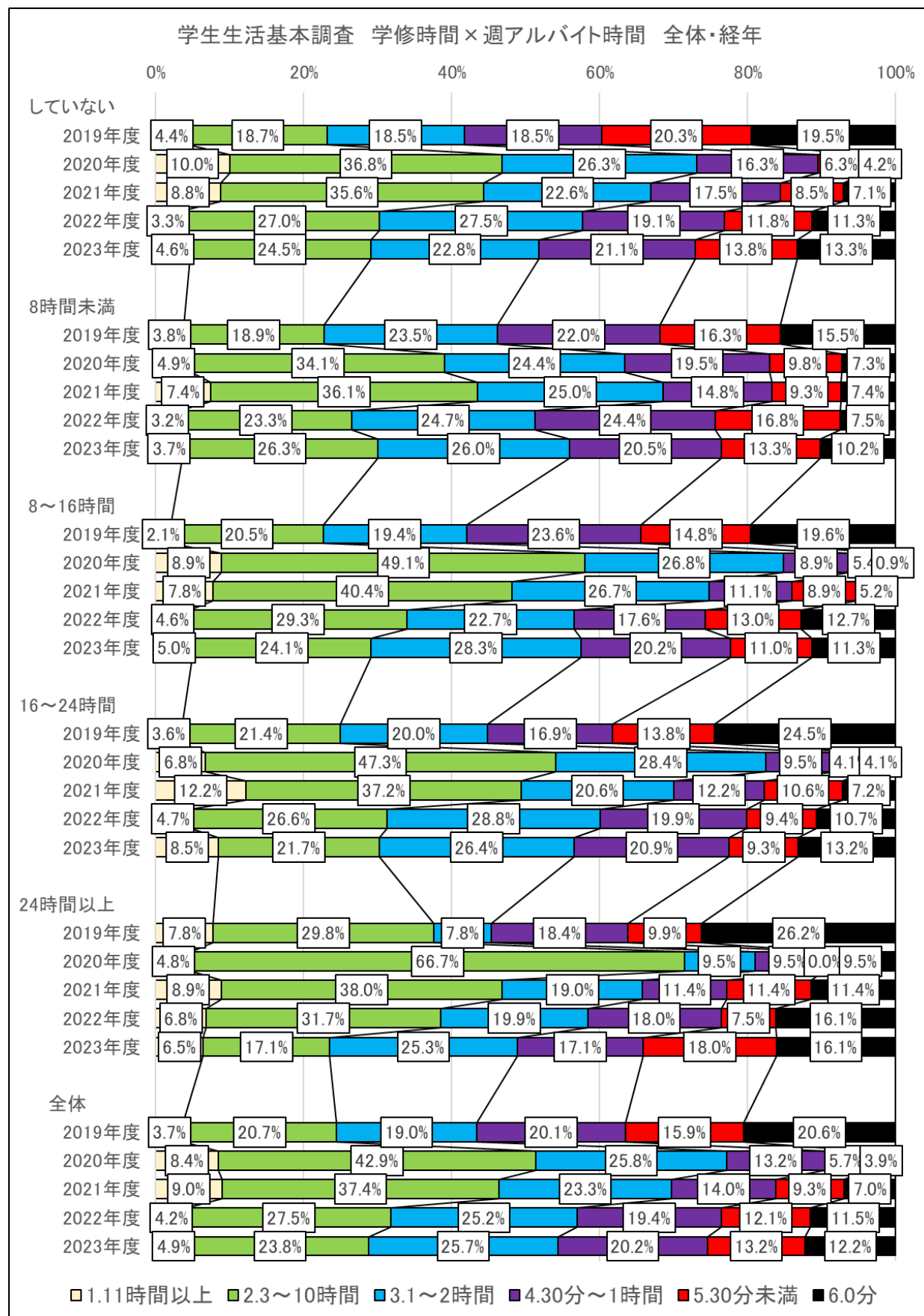
2023年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間×Q5週アルバイト時間② n=1687



2022年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間×Q5週アルバイト時間③ n=2119



参考) 2019 年度から 2023 年度調査経年比較

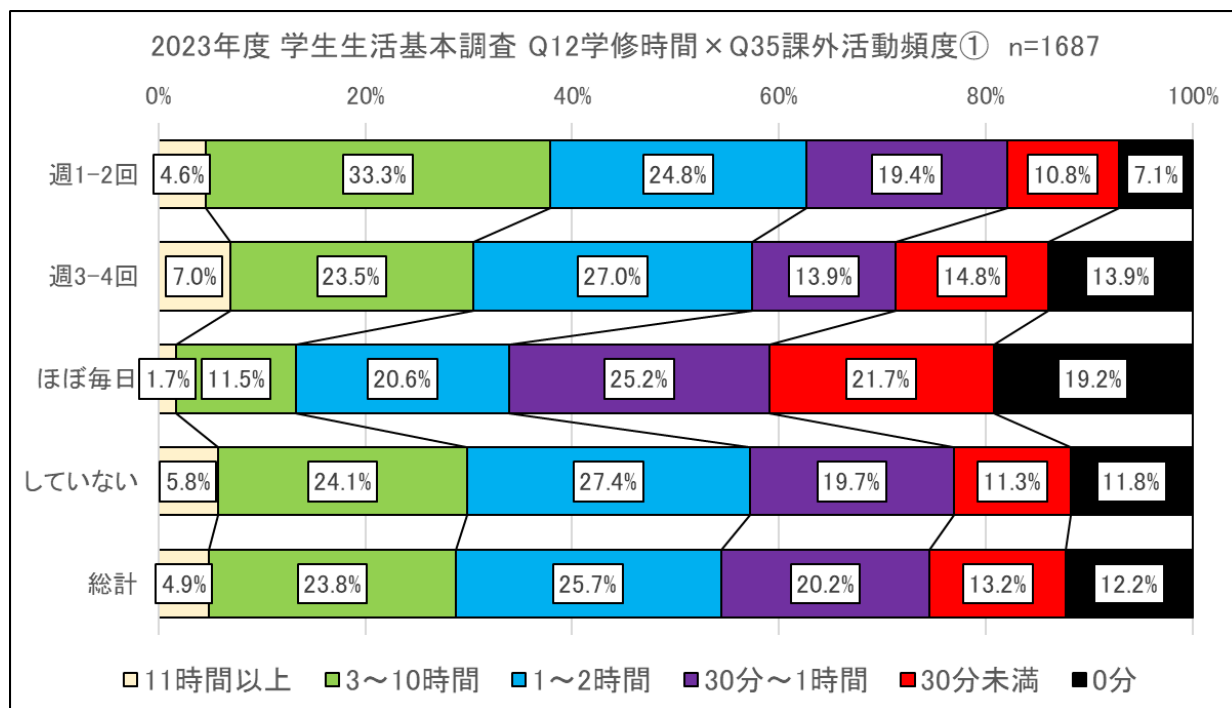


(5) 週当たり課外活動頻度とのクロス集計

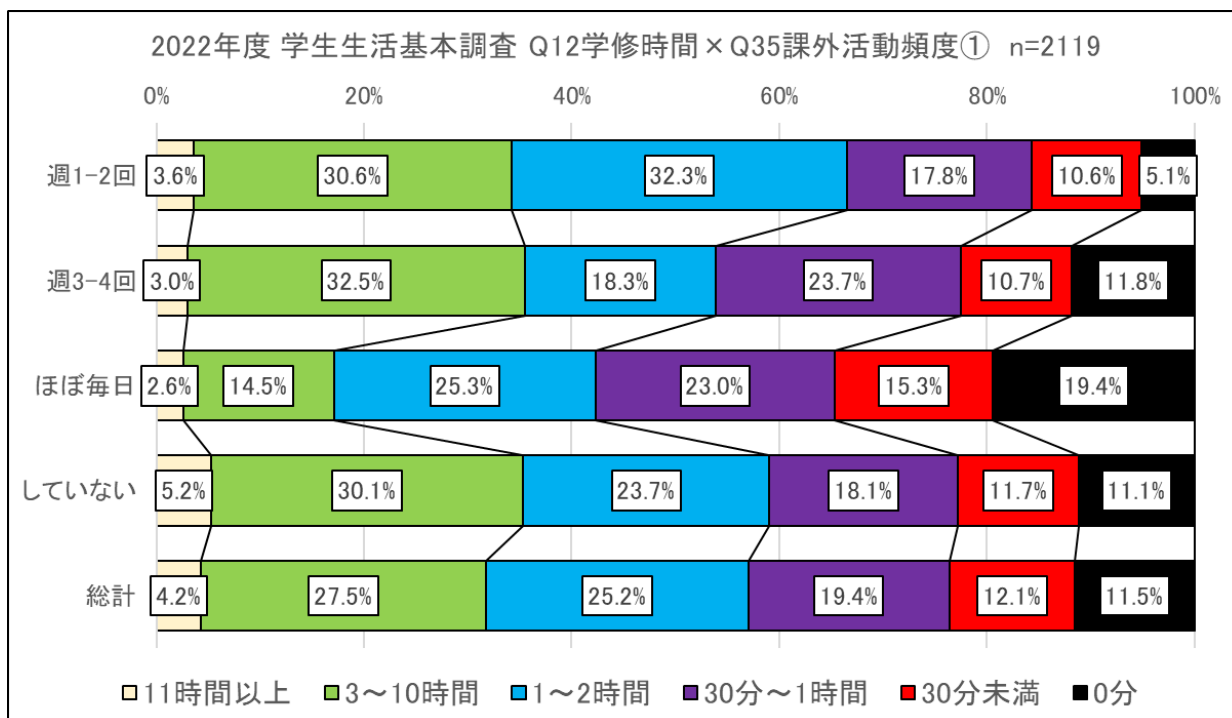
学修時間と週当たりの課外活動頻度についてのクロス集計を行いました。2020 及び 2021 年度調査では、コロナ禍により課外活動頻度に関する設問は設けていませんでした。また、コロナ以前と設問形式が異なることから経年比較は 2 年分のグラフを掲載することとします。

週当たりの課外活動頻度の構成比は「していない」55%、「週 1-2 回」21%、「週 3-4 回」7%、「ほぼ毎日」17%でしたが、学部で構成が異なり、スポーツ科学／現代文化学部では、「ほぼ毎日」42%、「していない」30%ですが、他の 4 学部は「していない」が 60%前後を占め、メディア情報学部では、「ほぼ毎日」は 4%でした。

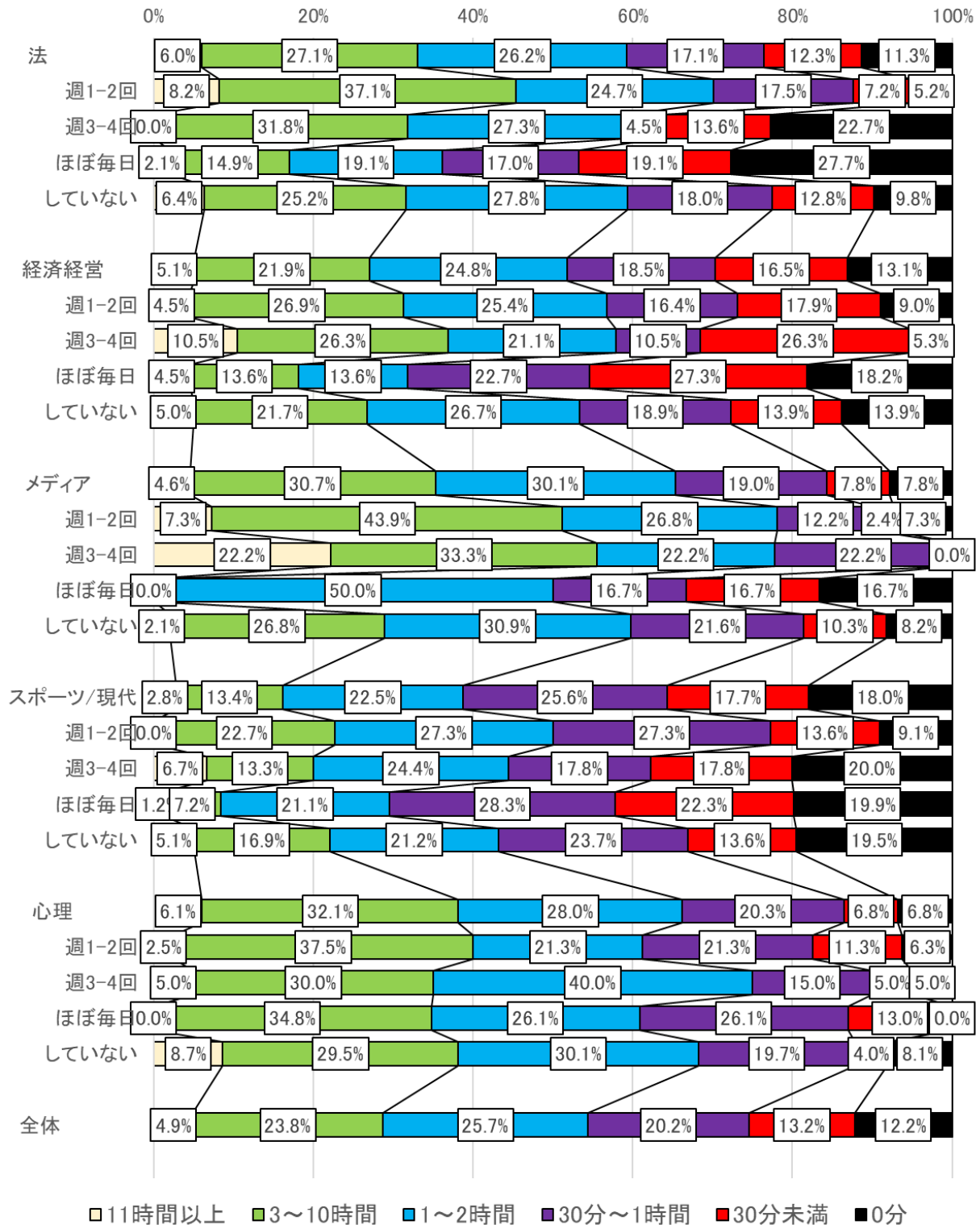
学修時間が 1 時間未満（「0 分」「30 分未満」「30 分～1 時間未満」）の割合は、課外活動頻度が増えるにつれ高くなりますが、学修時間 3 時間以上の割合は「ほぼ毎日」以外は大きな差はありませんでした。



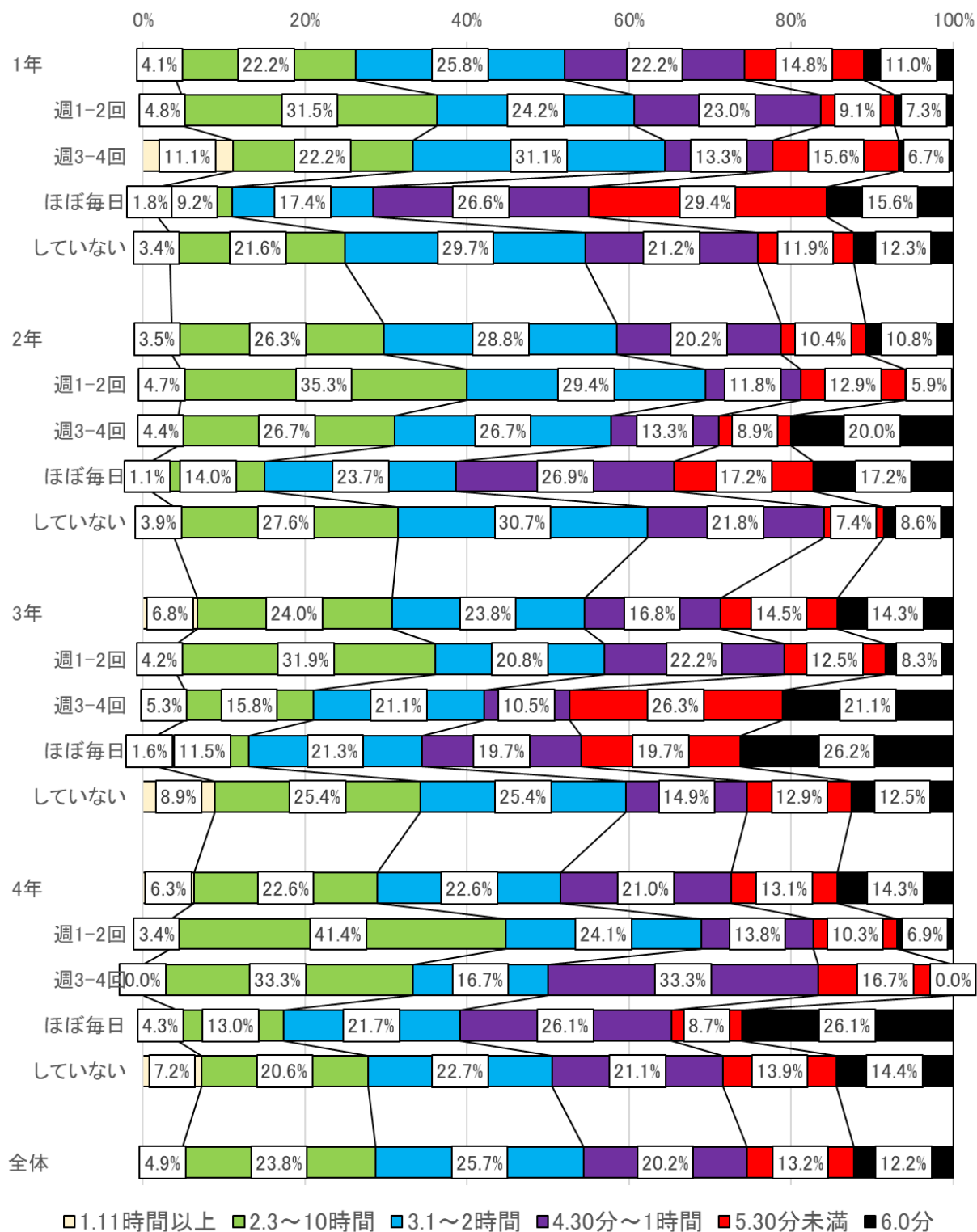
参考) 2022 年度調査



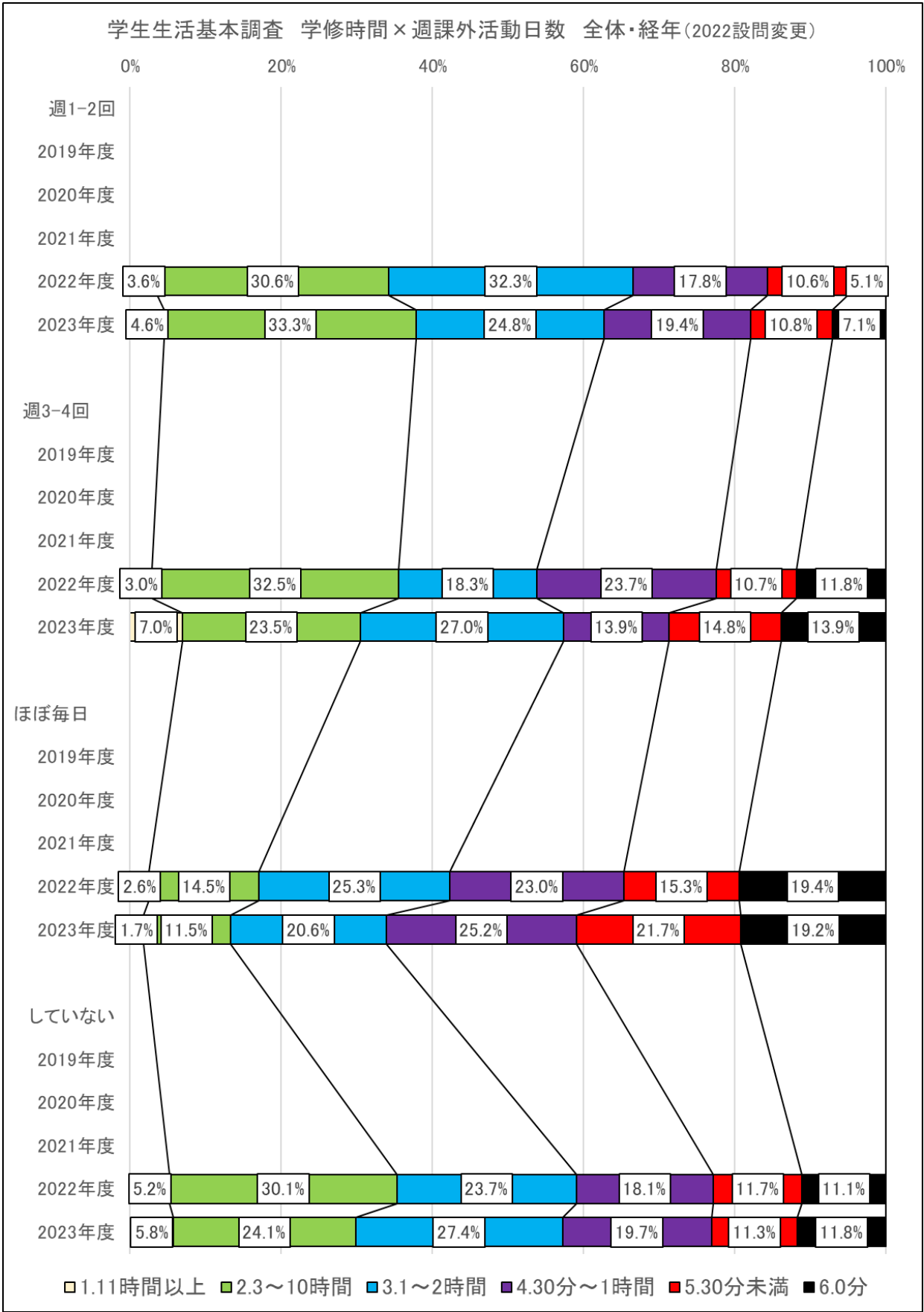
2023年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間×Q35課外活動頻度② n=1687



2023年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間×Q35週課外活動頻度③ n=1687



参考) 2022 年度から 2023 年度調査経年比較

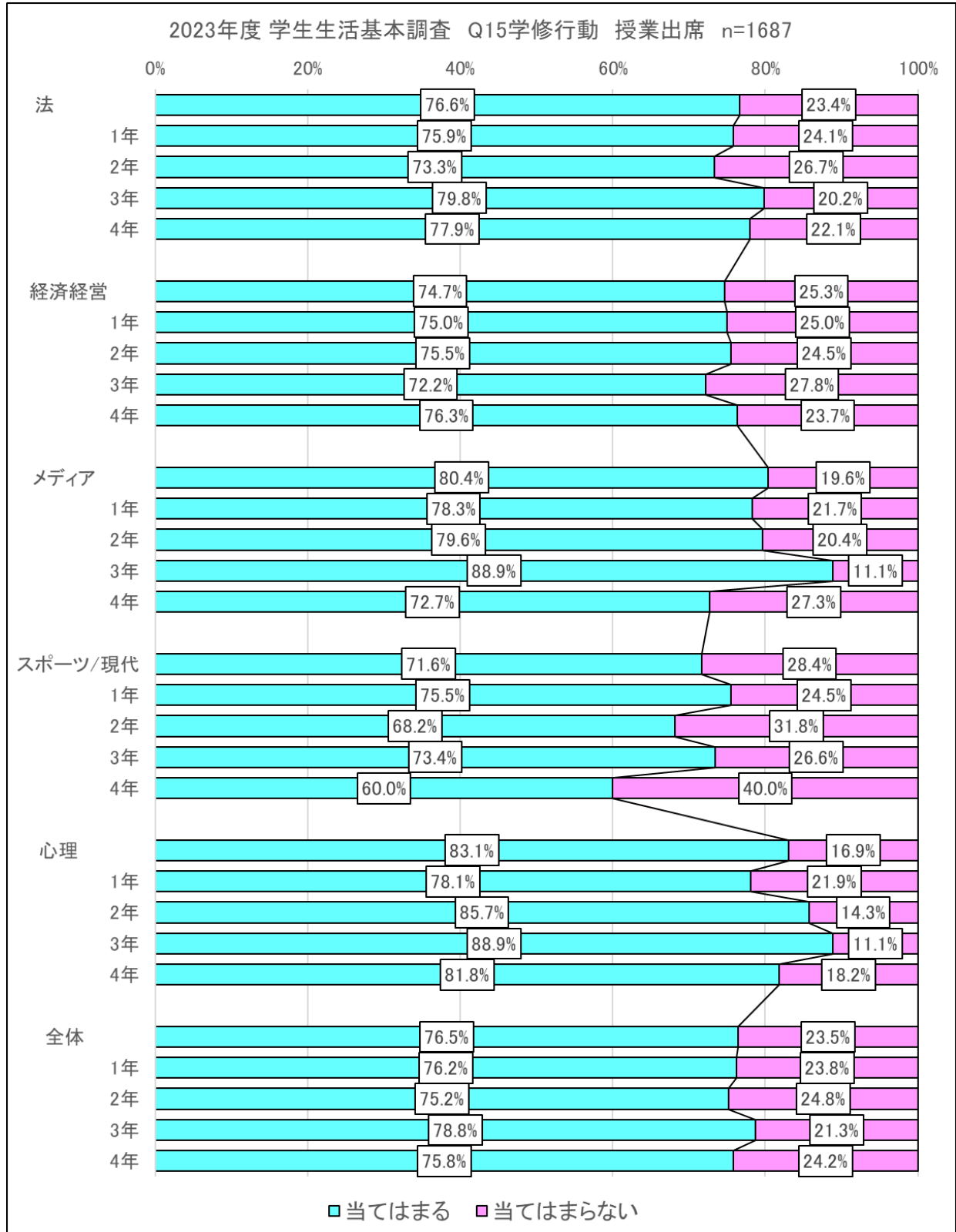


注) 2019 年度は選択肢違い、2020～2021 年度はコロナ禍のため当該設問なし

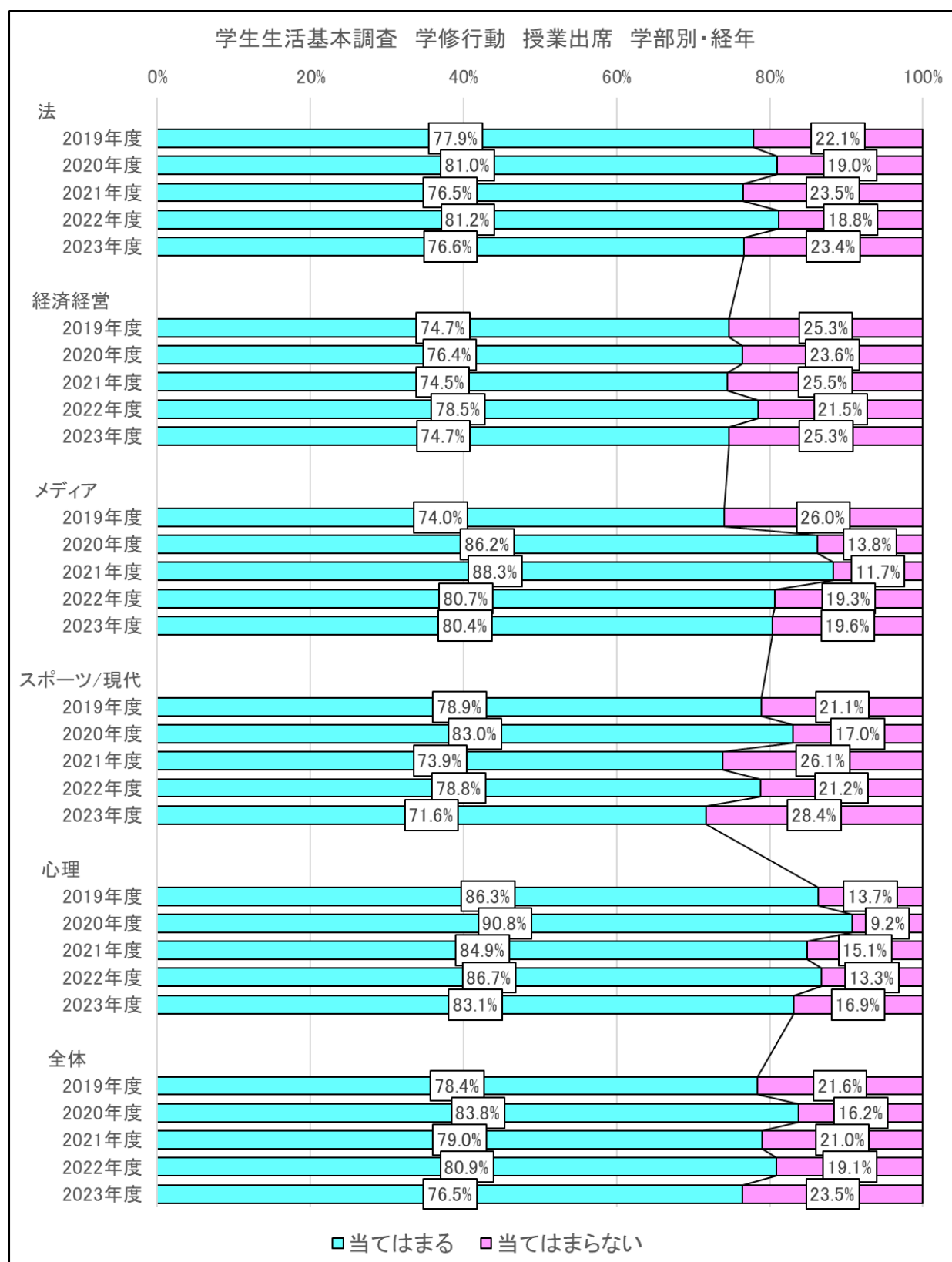
4. 学修行動に関する調査結果概要

(1) できる限り授業に出席する

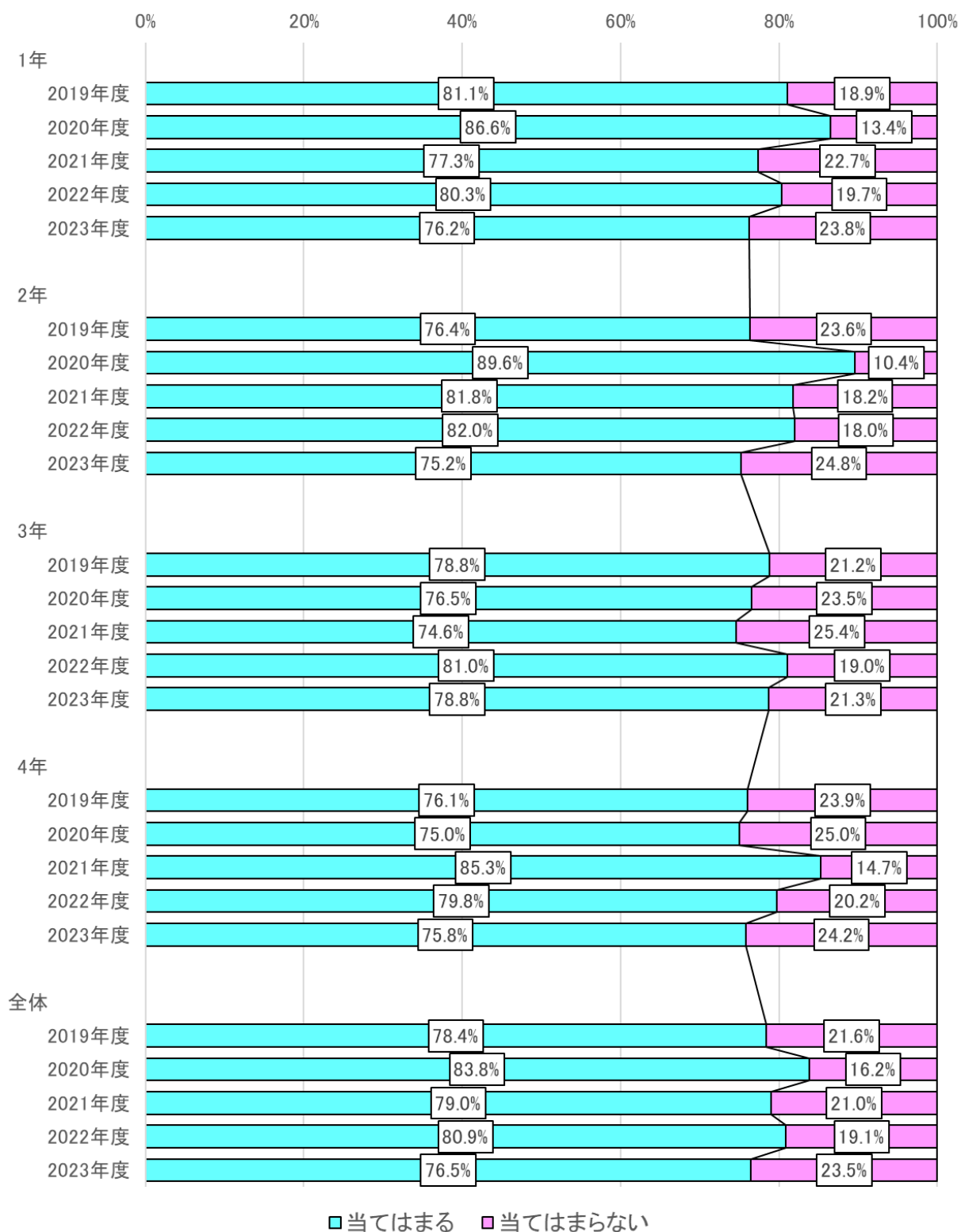
2023 年度調査では、できる限り授業に出席するは、「当てはまる」を選択した層の割合が 77%で前年度-4%、学部別では心・メの 2 学部が 80%を超えています。学年別では 3 年次の「当てはまる」を選択した層の割合がやや高くなっています。経年では、学部別でメディア情報学部以外の 4 学部、学年別では 3 年次以外の 3 学年で「当てはまる」を選択した層の割合が 3%以上低下しています。



参考) 2019 年度から 2023 年度調査経年比較

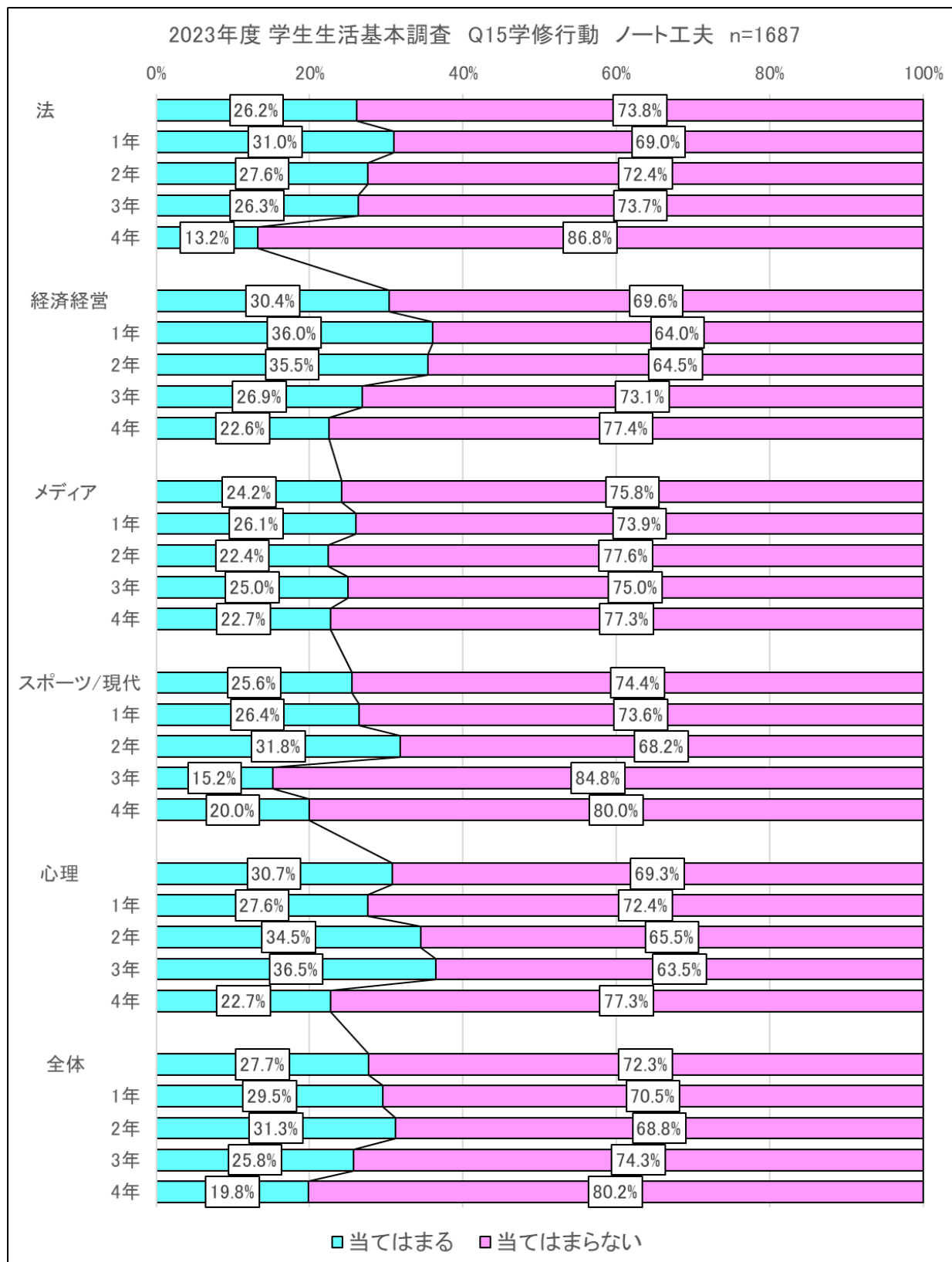


学生生活基本調査 学修行動 授業出席 学年別・経年

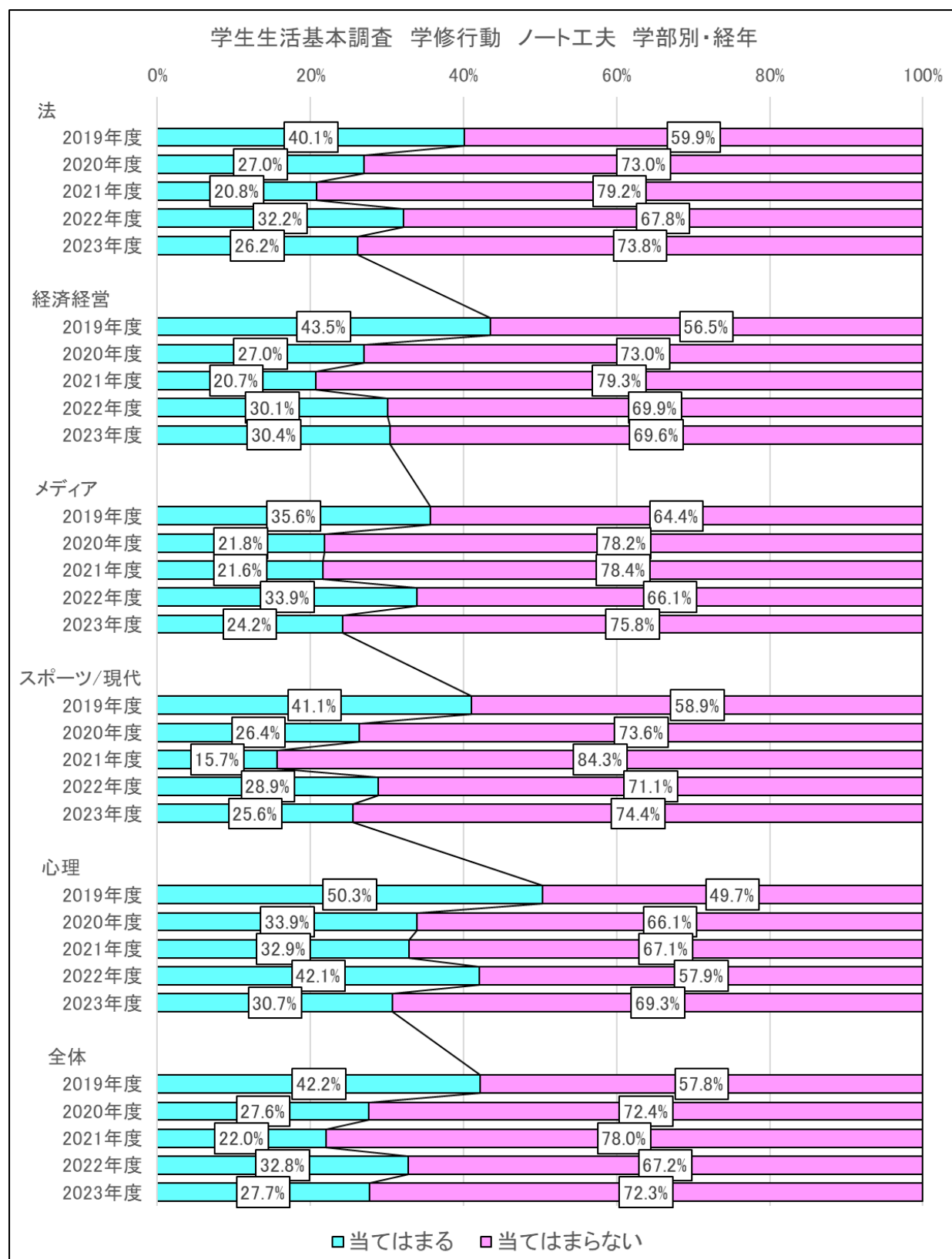


(2) ノートの取り方を工夫する

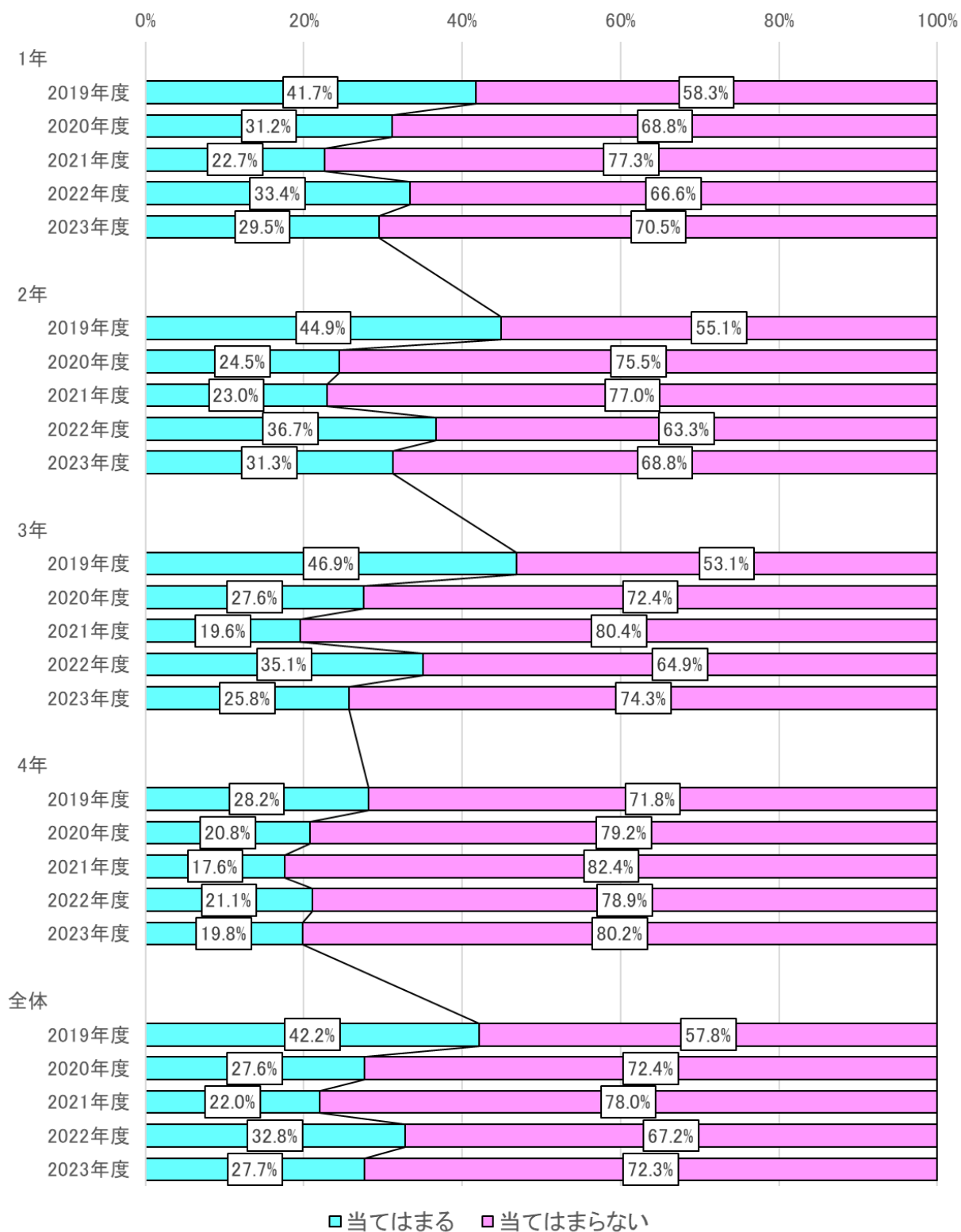
2023年度調査では、「当てはまる」を選択した層の割合は全体で28%と前年度より5%低下しましたが。前々年度は5%上回っています。学部別では、心・経の2学部が30%台でやや高く。学年別では、4年次が20%と他の3学年に比べ下回っています。経年では、「当てはまる」を選択した層の割合は、平均的な値と言えます。



参考) 2019 年度から 2023 年度調査経年比較

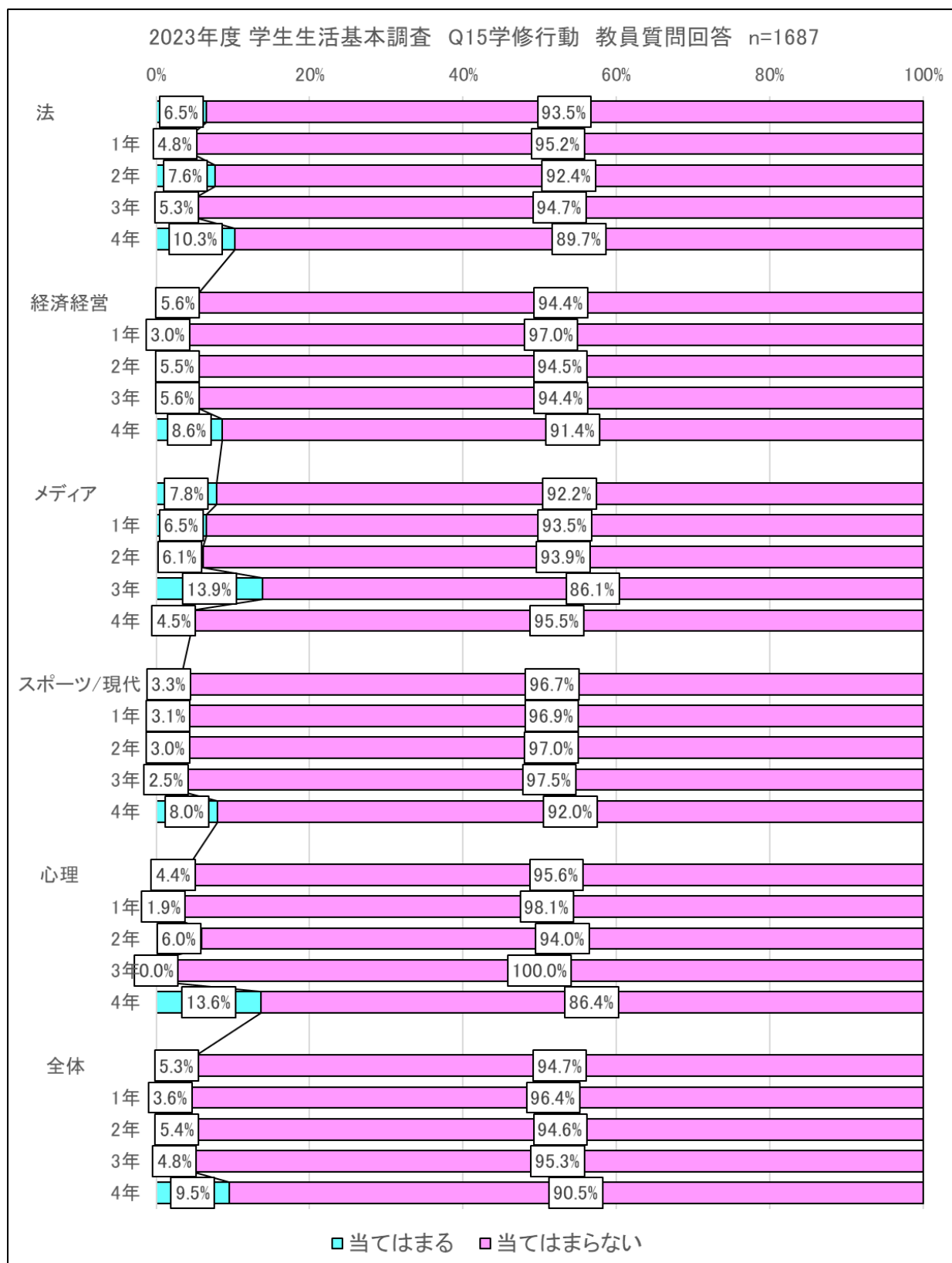


学生生活基本調査 学修行動 ノート工夫 学年別・経年

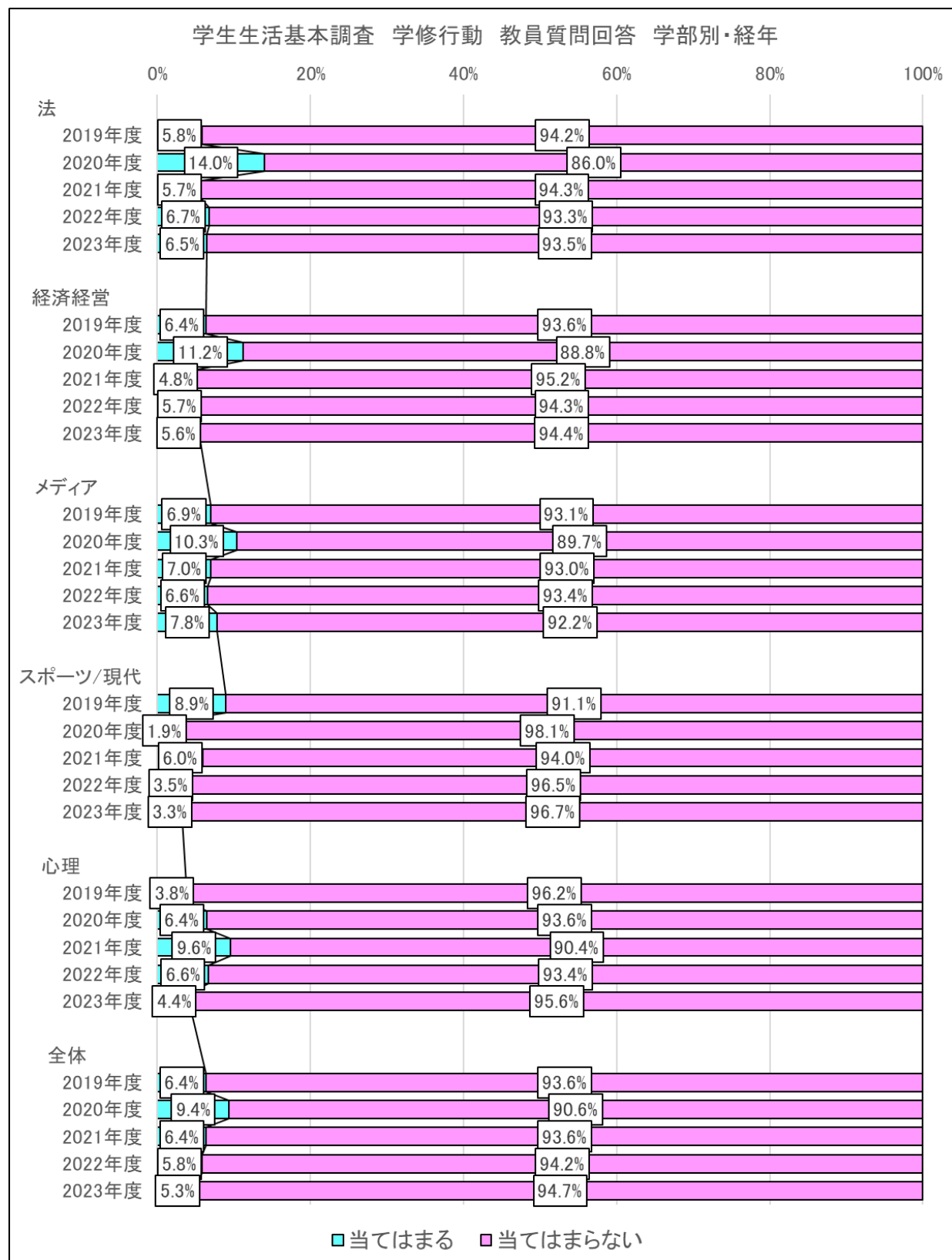


(3) 授業中教員の質問に答える

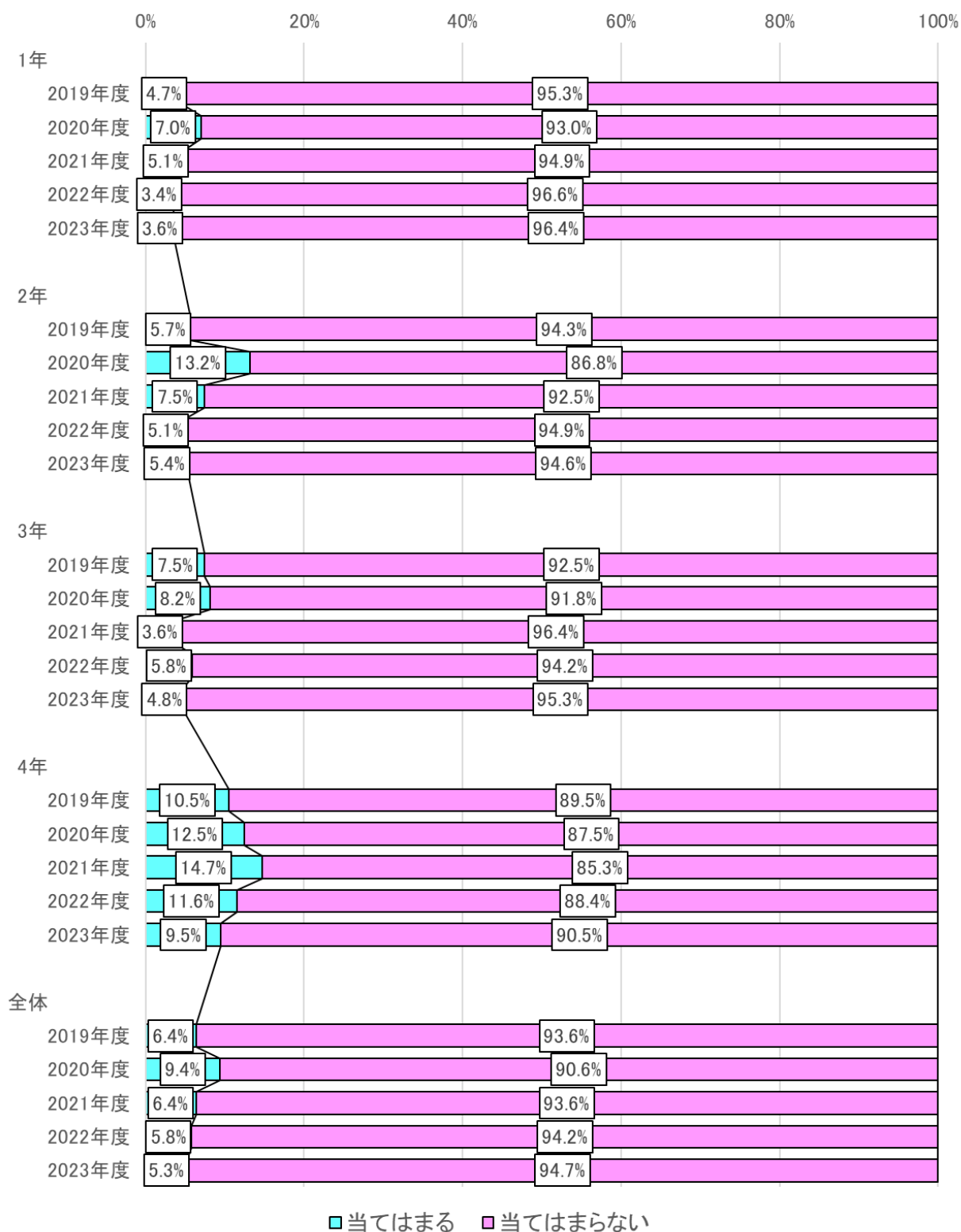
2022年度調査では、前年度同様、全体では「当てはまる」が5%、「当てはまらない」が95%となっています。学部別ではメディア情報学部における「当てはまる」を選択した層の割合が8%でやや高く、ス／現・心の2学部は3～4%でやや低くなっています。学年別では4年次が10%であり、1年次は4%で低くなっています。経年では、「当てはまる」を選択した者の割合が微減傾向にあると言えます。



参考) 2019 年度から 2023 年度調査経年比較

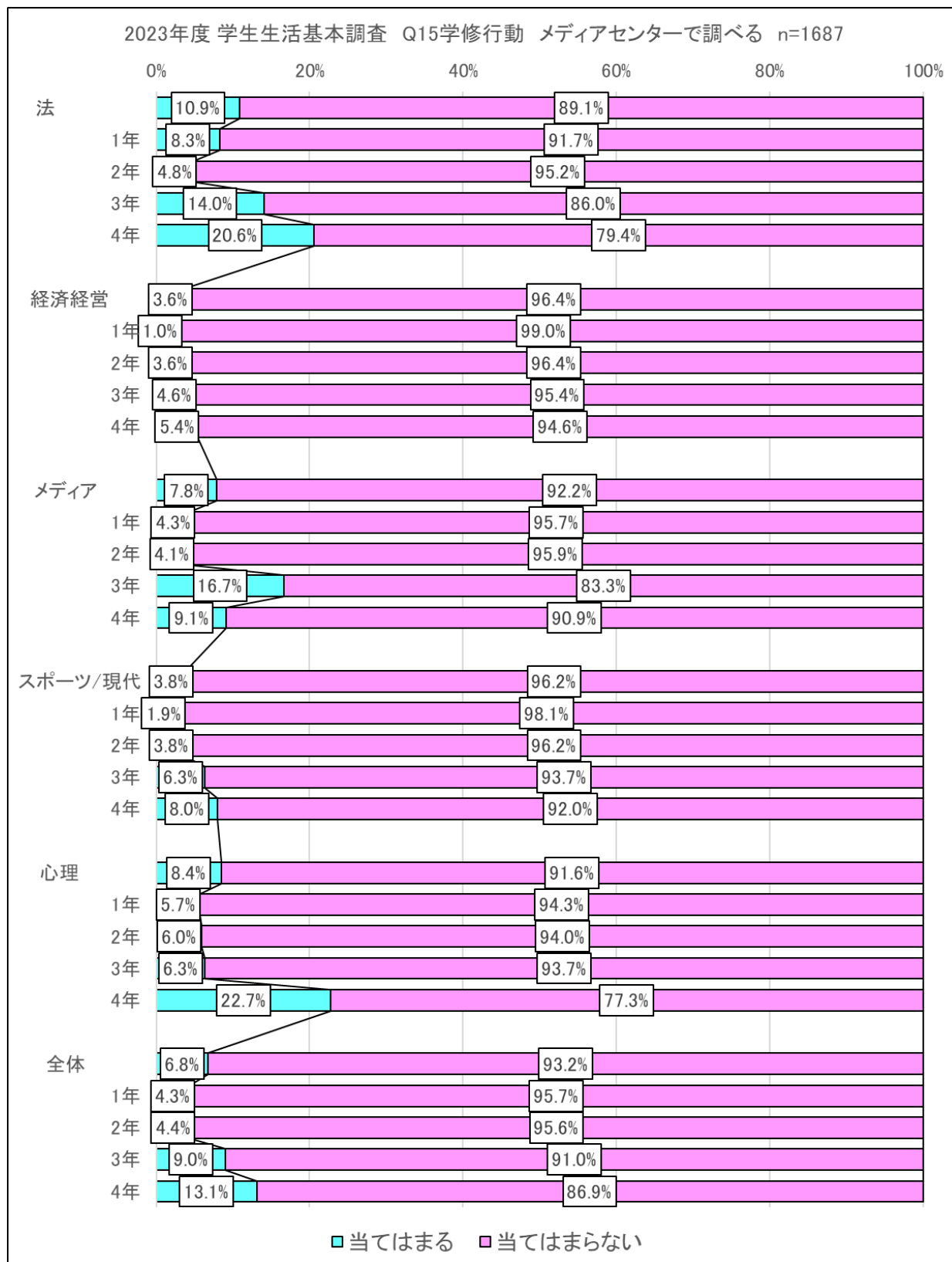


学生生活基本調査 学修行動 教員質問回答 学年別・経年

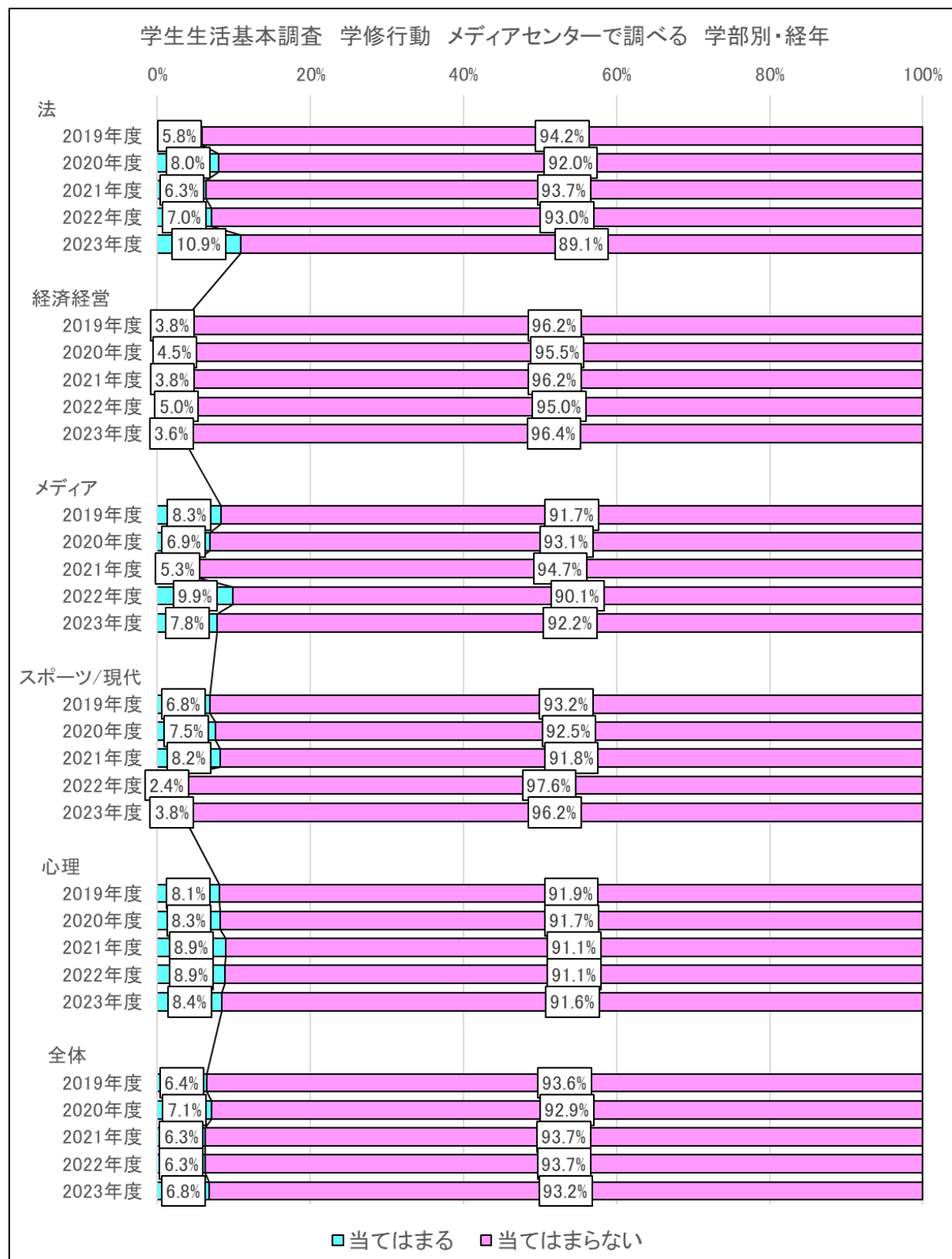


(4) メディアセンターで調べる

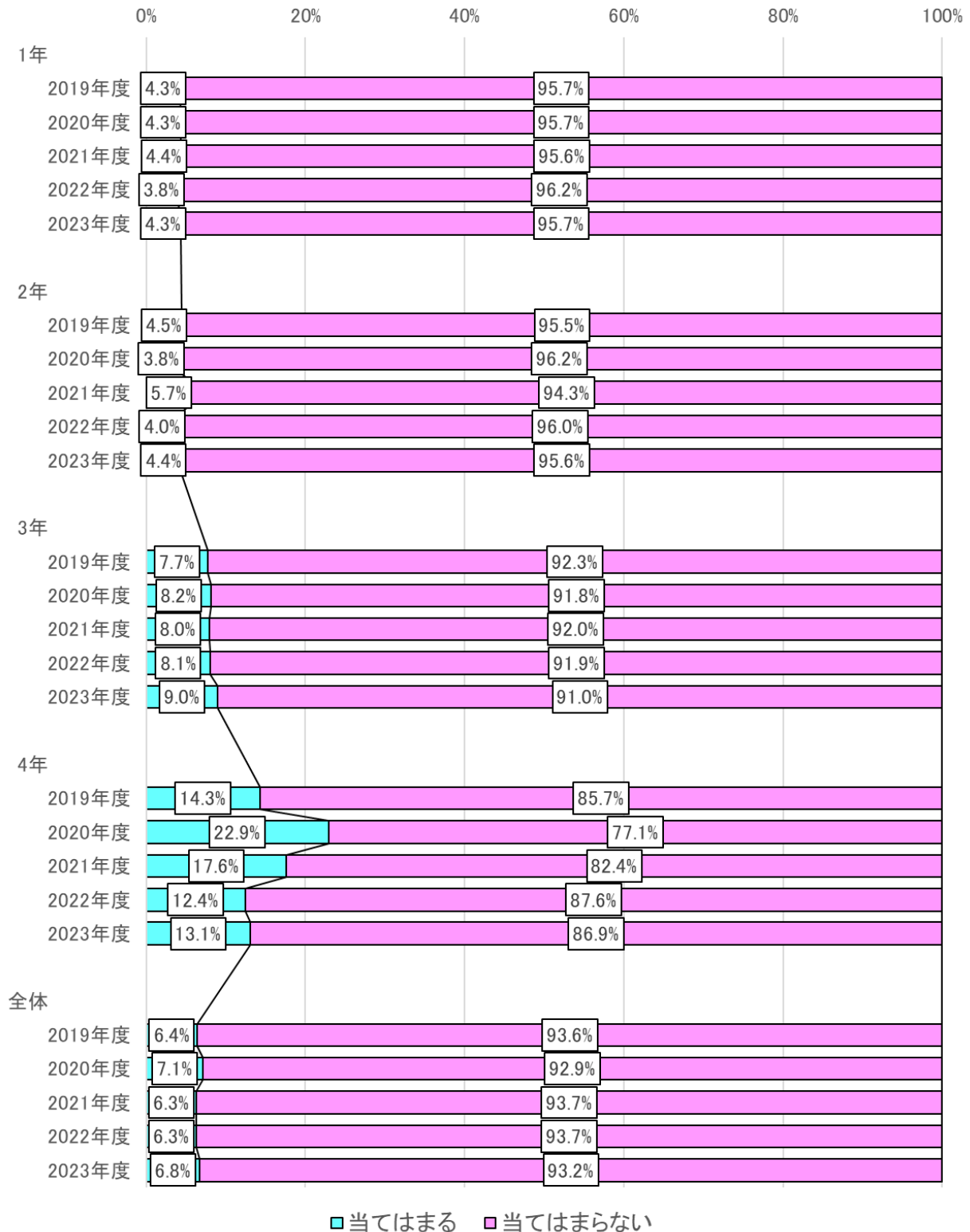
2022年度調査では、全体で「当てはまる」が7%、「当てはまらない」が93%となっています。学部別では、経・ス/現の2学部で「当てはまる」を選択した層の割合がやや低くなっています。学年別では4年次、特に心・法の2学部で「当てはまる」を選択した層の割合が高くなっており、卒業論文・ゼミ論文作成の関係と考えられます。経年では5年間ほぼ同様の割合が継続しており、変化の少ない設問と言えます。



参考) 2019 年度から 2023 年度調査経年比較

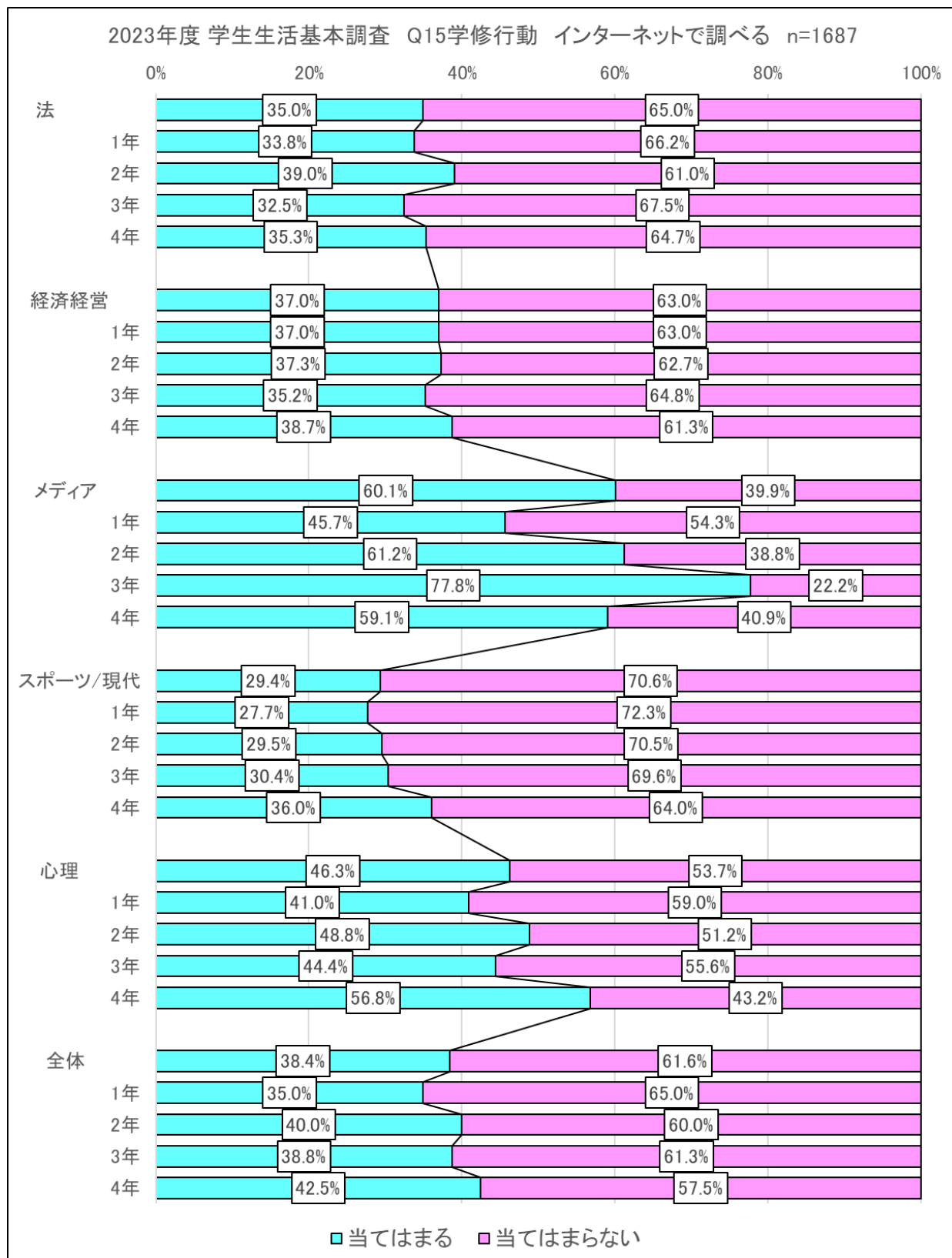


学生生活基本調査 学修行動 メディアセンターで調べる 学年別・経年

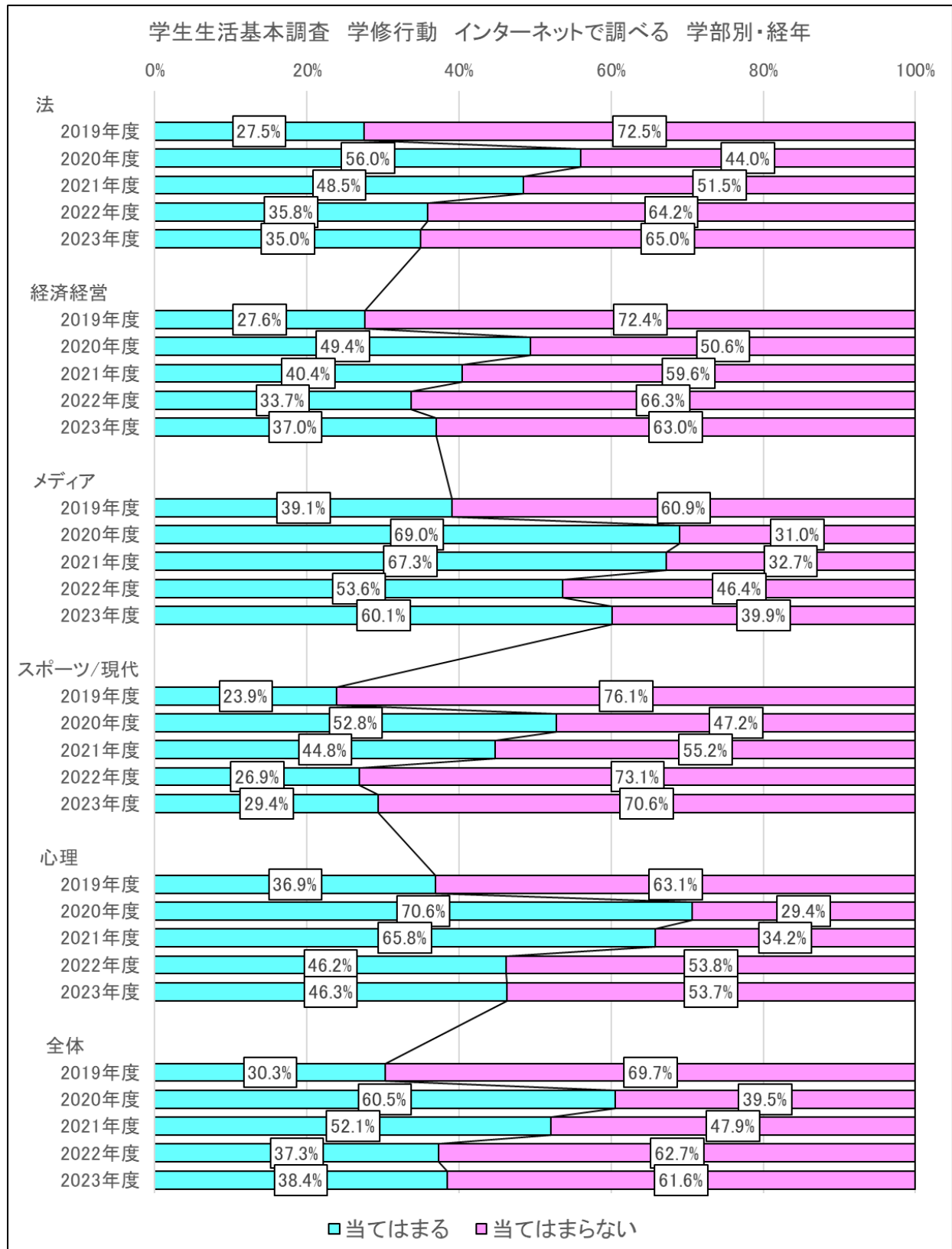


(5) インターネットで調べる

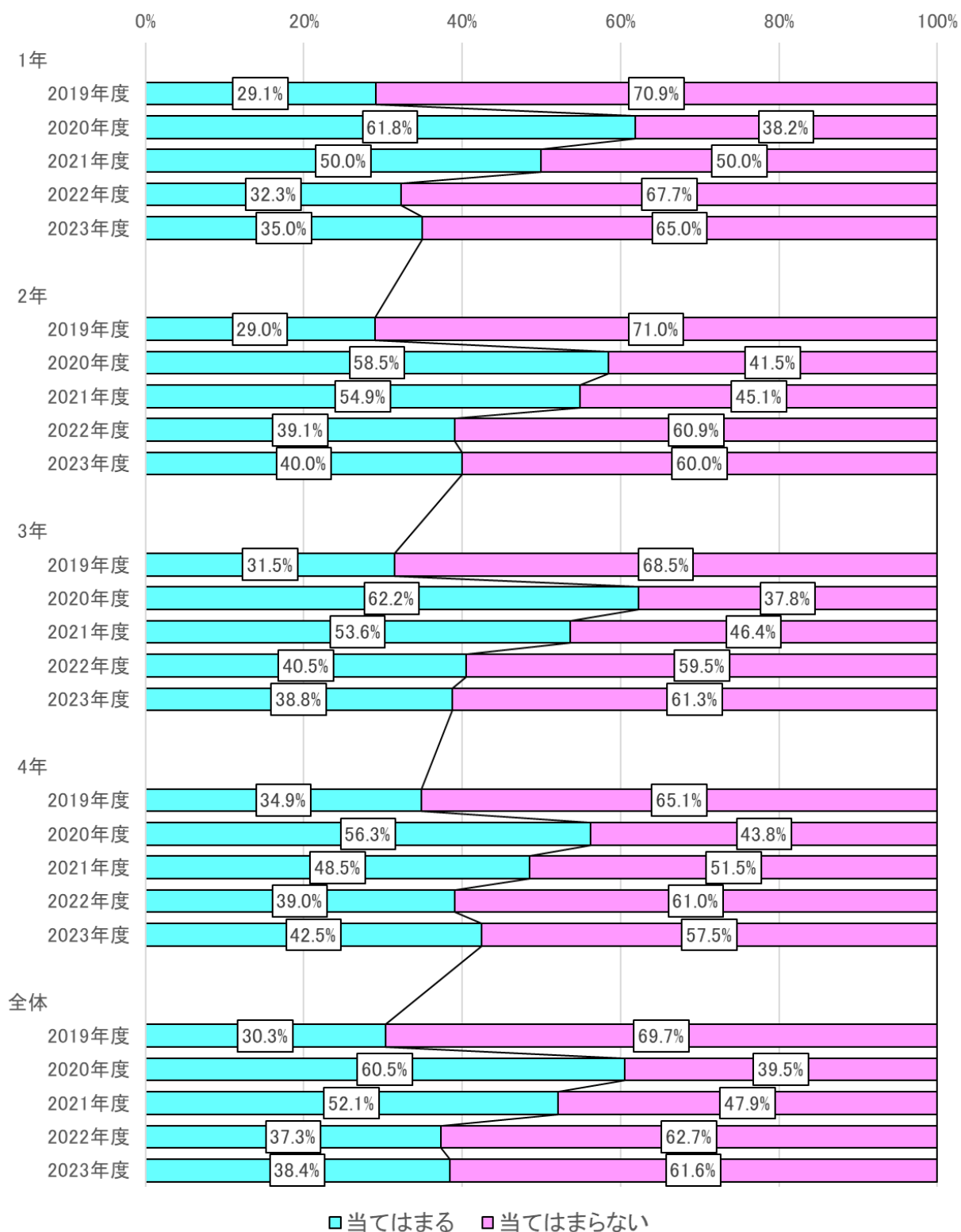
2023年度調査では、全体では38%が「当てはまる」、62%が「当てはまらない」となっています。学部別では、メディア情報学部及び心理学部で「当てはまる」の割合が高い傾向が継続しています。学年別では顕著な差は見られません。経年では、コロナ禍の2年間は「当てはまる」の割合が学部・学年を問わず大幅に高くなりましたが、学部別、学年別ともに前年度とほぼ同様の割合でした。



参考) 2019 年度から 2023 年度調査経年比較

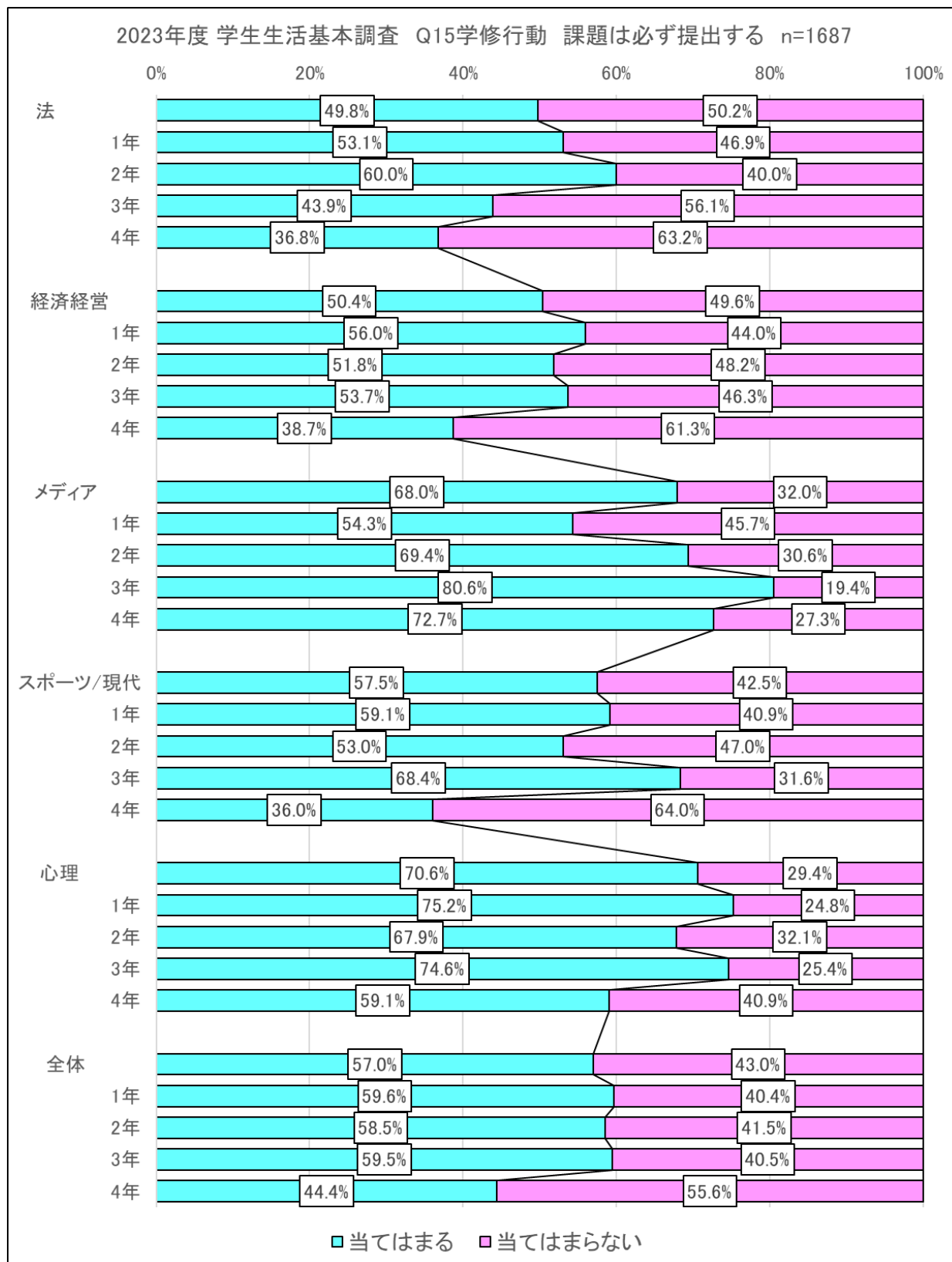


学生生活基本調査 学修行動 インターネットで調べる 学年別・経年

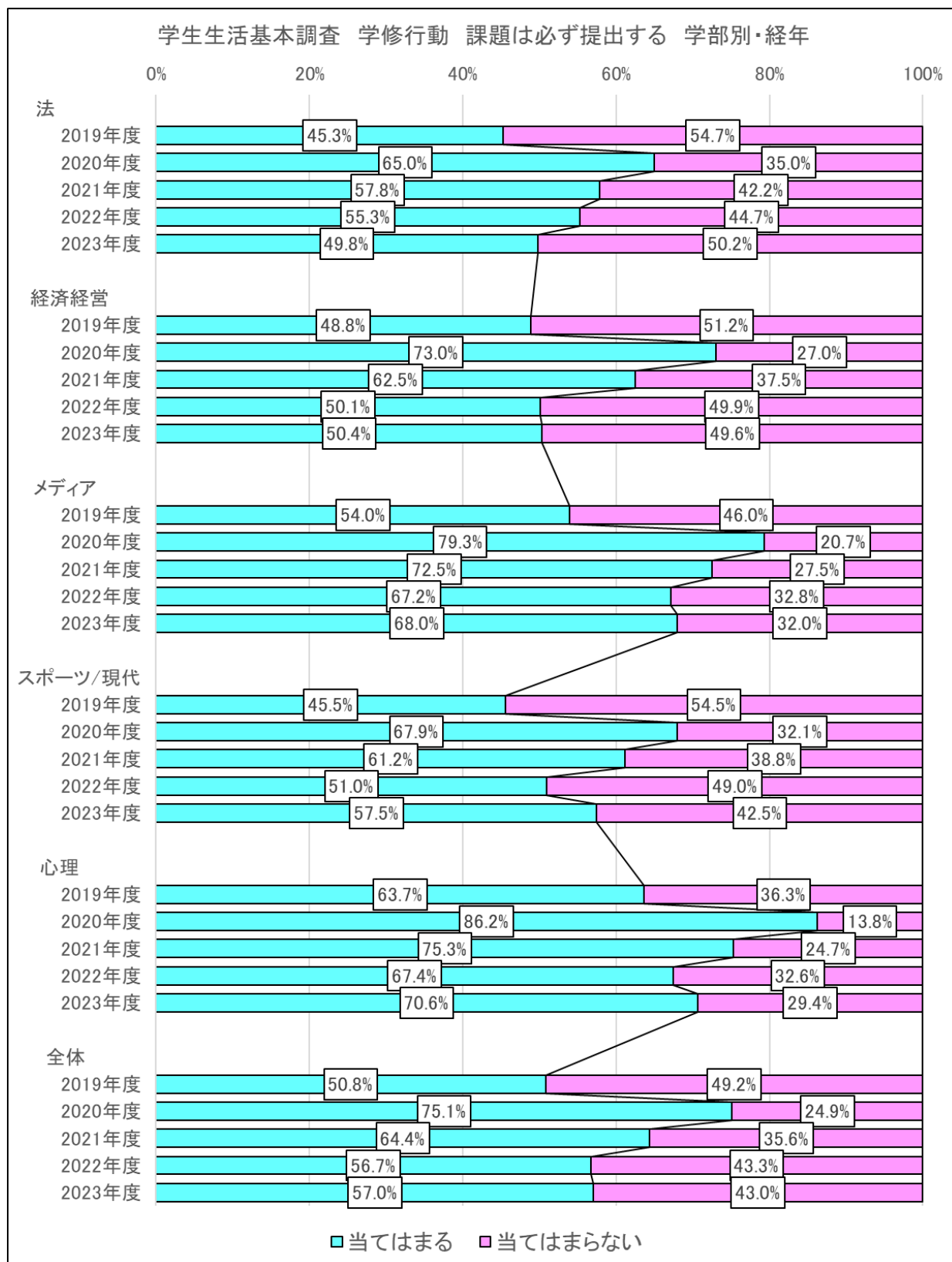


(6) 宿題・課題は必ず提出する

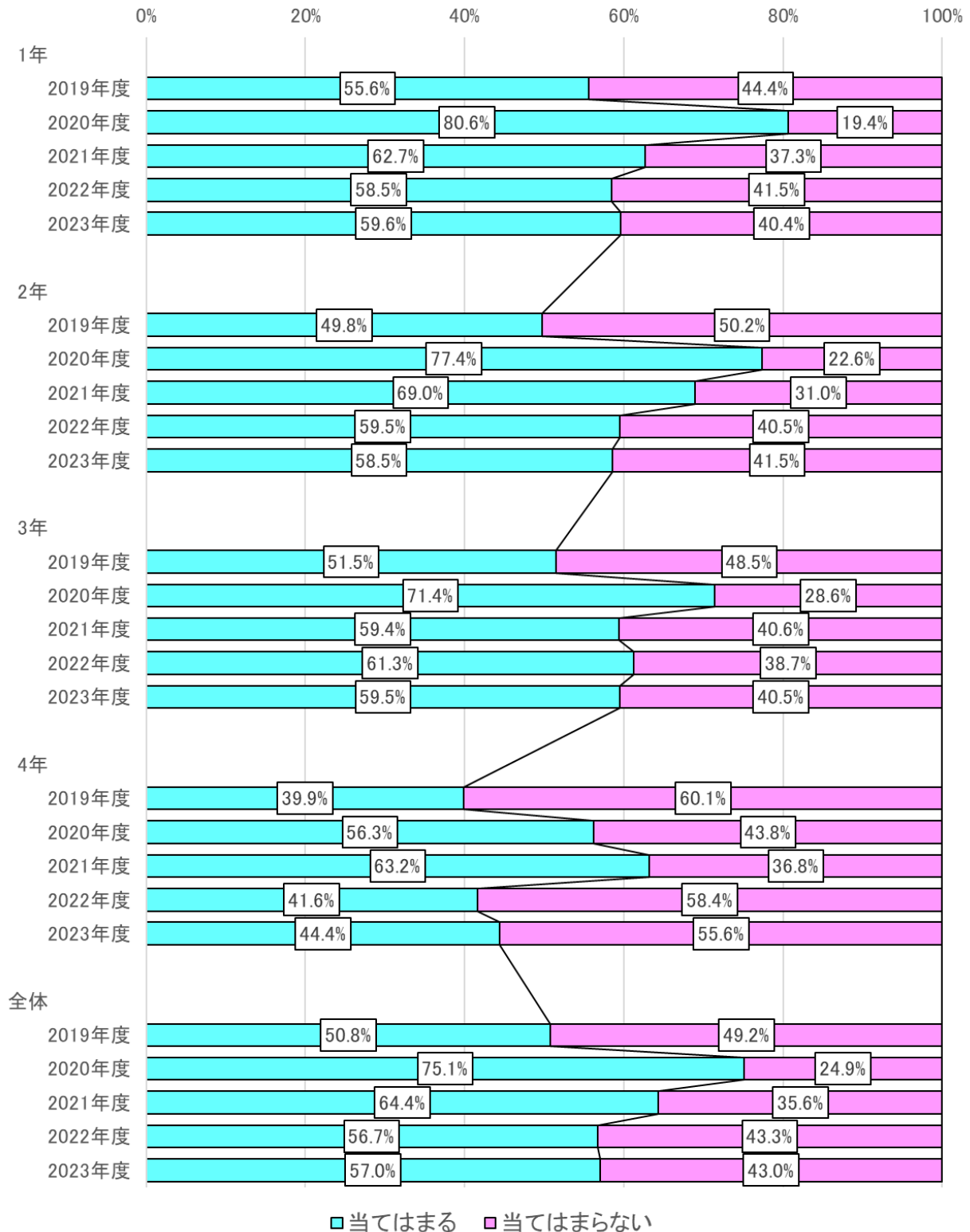
2023年度調査では、全体で57%が「当てはまる」、43%が「当てはまらない」となっています。学部別では、メディア情報学部・心理学部で「当てはまる」を選択した層の割合が高くなっています。学年別では4年次で「当てはまる」を選択した層の割合がやや低くなっています。経年では、コロナ禍の2年間はオンライン授業による宿題・課題の増加傾向の影響もあり「当てはまる」の割合が学部・学年を問わず大幅に高くなりましたが、前問同様に前年度とはほぼ同様の割合でした。



参考) 2019 年度から 2023 年度調査経年比較

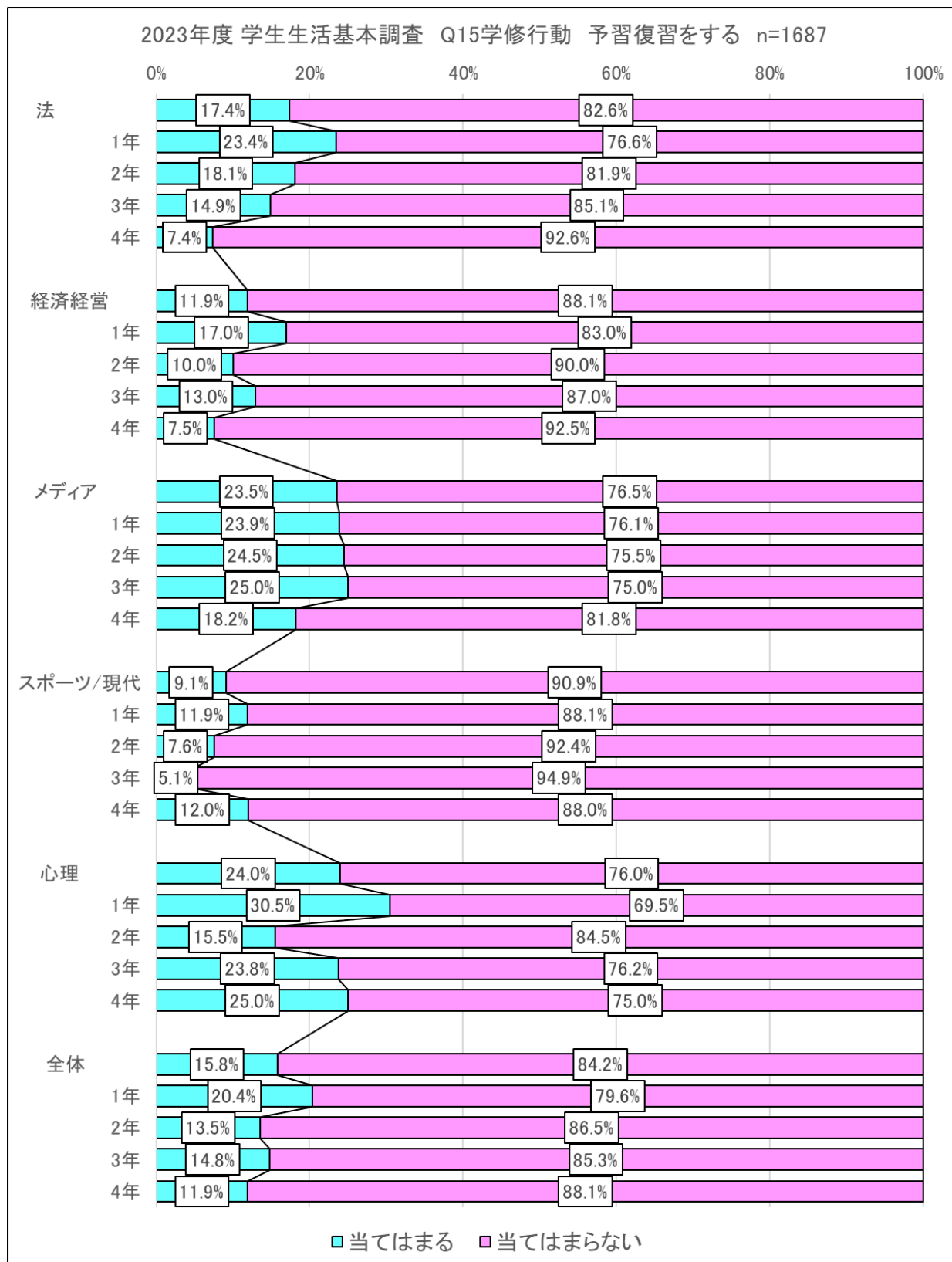


学生生活基本調査 学修行動 課題は必ず提出する 学年別・経年

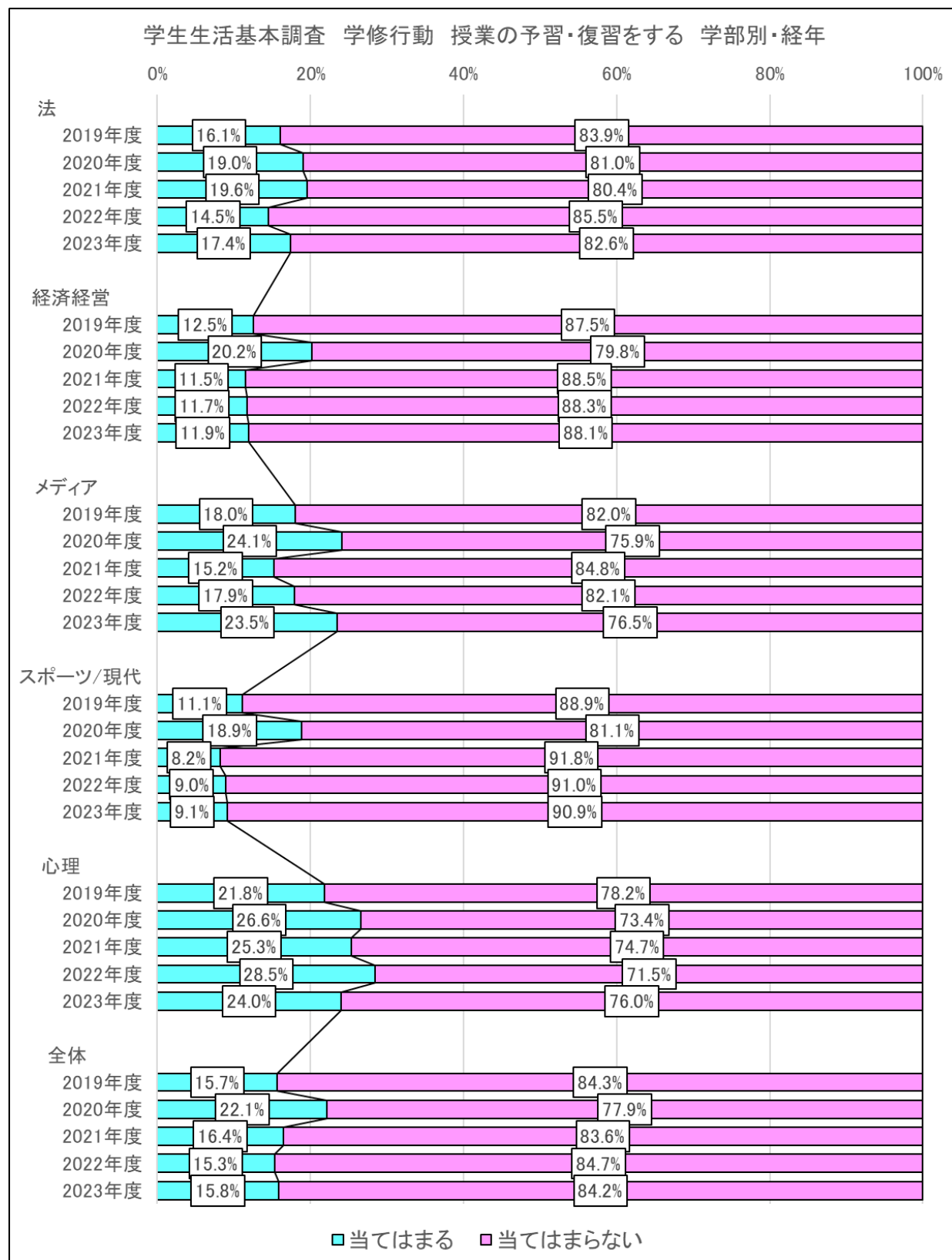


(7) 授業の予習・復習をする

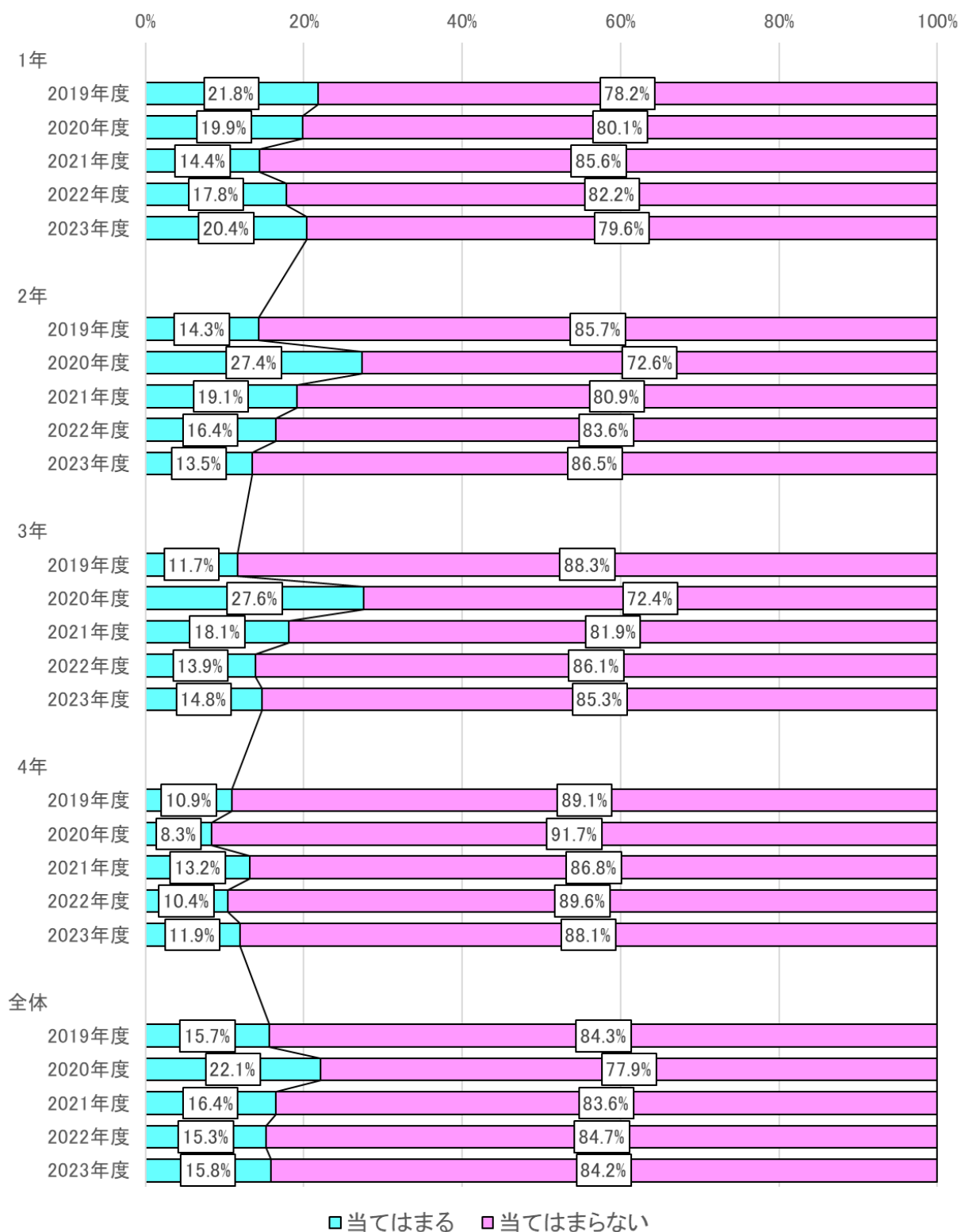
2023 年度調査では、全体で 12%が「当てはまる」、88%が「当てはまらない」となっています。学部別では、心・メの 2 学部で「当てはまる」を選択した層の割合が 20%台でやや高く、スポーツ科学/現代文化学部で 9%と低くなっています。学年別では学年が上がるにつれ「当てはまる」の割合がやや低くなっています。経年では、2020 年度の 22%以外は 15%前後で推移しています。



参考) 2019 年度から 2023 年度調査経年比較

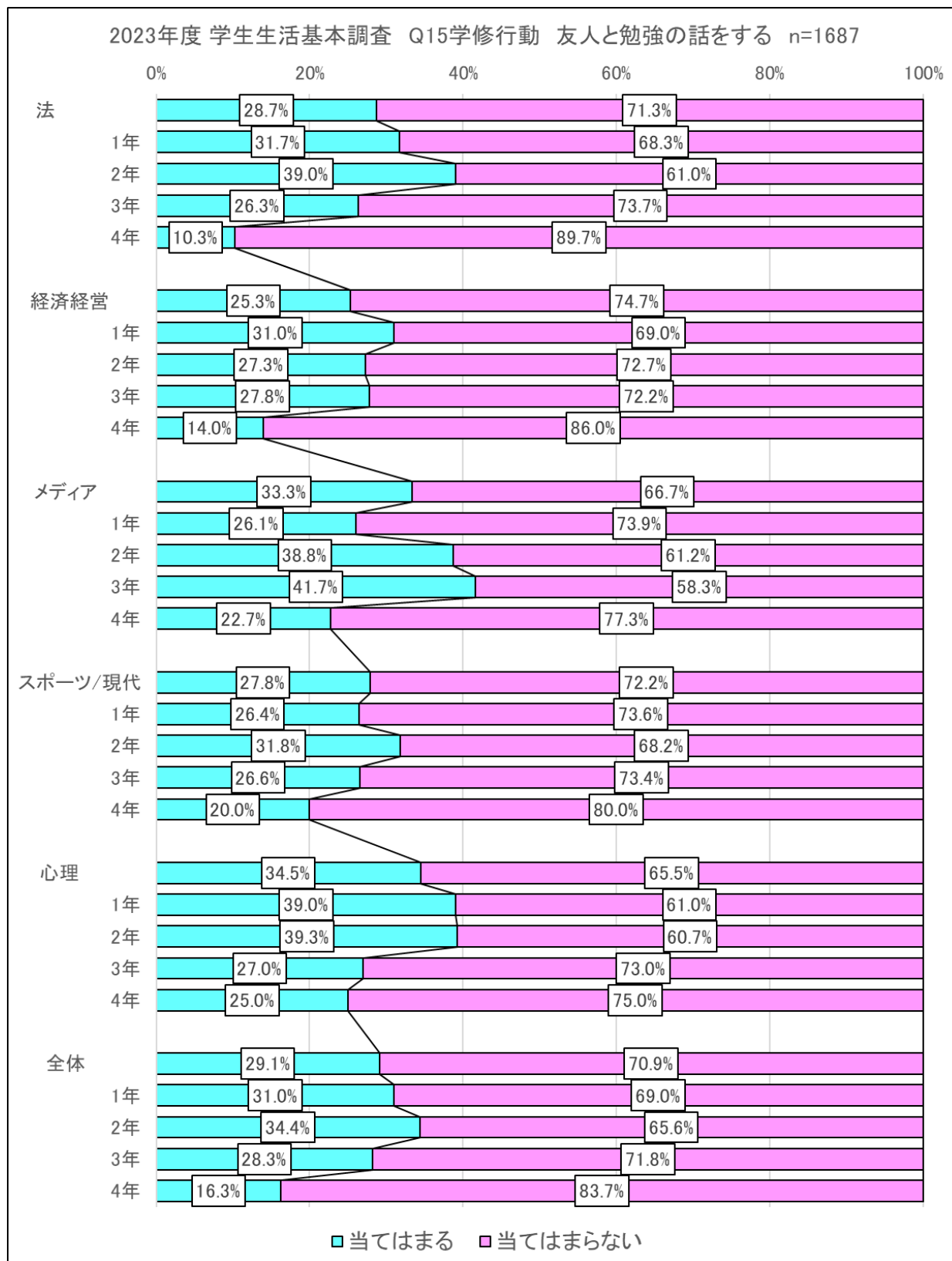


学生生活基本調査 学修行動 授業の予習・復習をする 学年別・経年

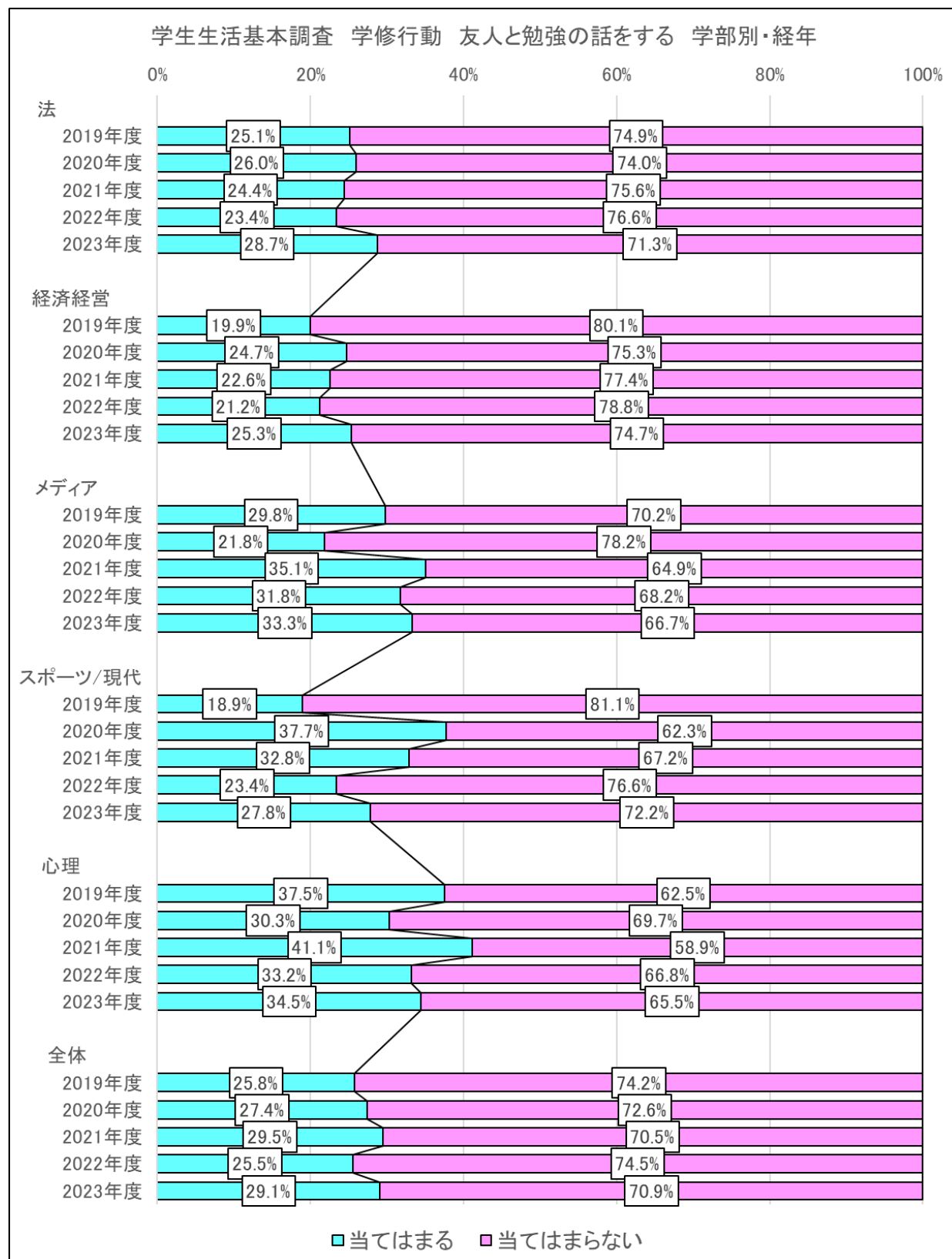


(8) 友人と勉強の話をする

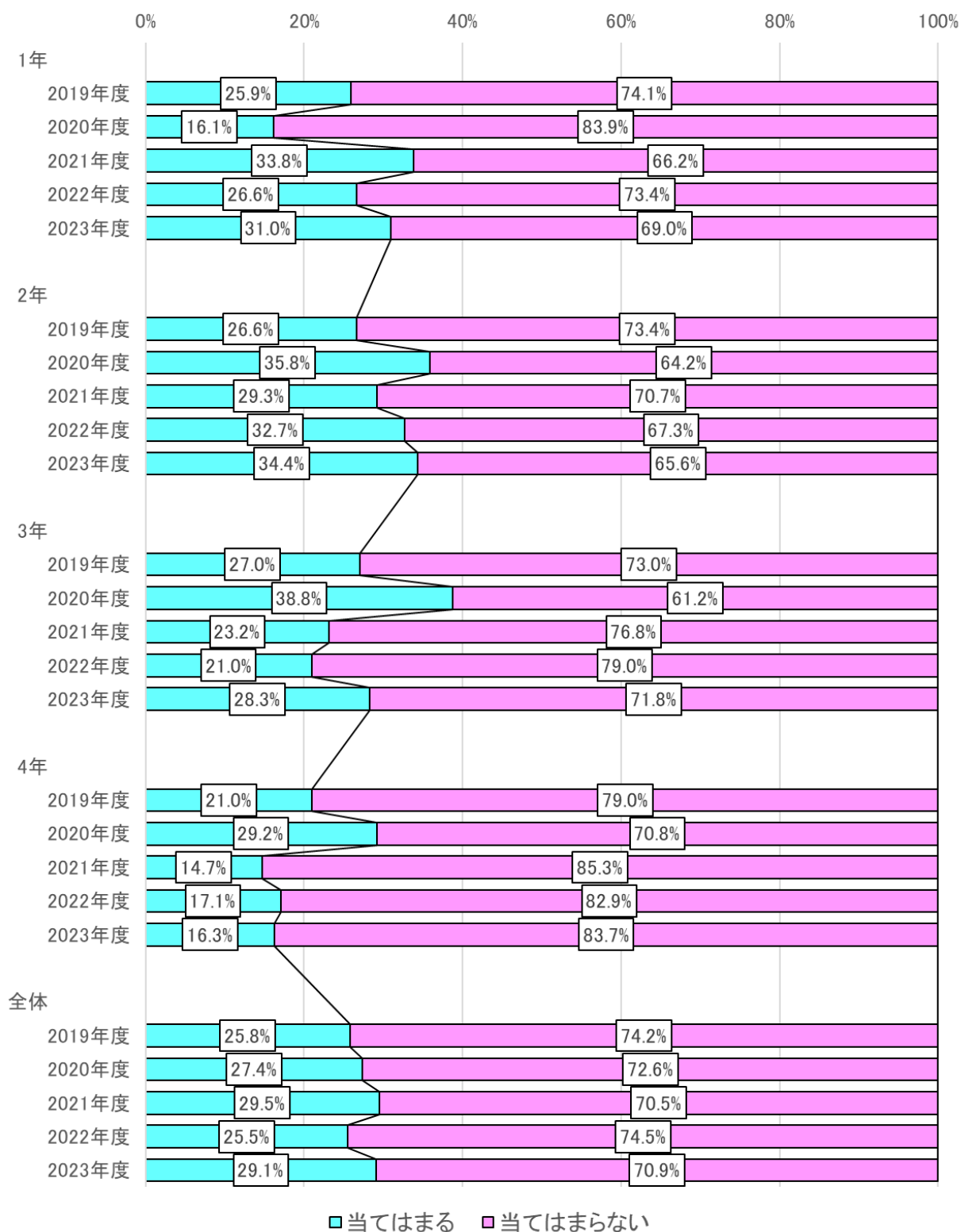
2023年度調査では、全体では29%が「当てはまる」、71%が「当てはまらない」となっています。学部別では、心理学部・メディア情報学部で「当てはまる」を選択した層の割合がやや高く、他の3学部は20%台でした。学年別では2.1年次で「当てはまる」の割合が高く、4年次は、「当てはまる」を選択した層の割合が低く、法・経の4年次が低くなっています。経年では、Web調査に変更した2019年度以降、「当てはまる」を選択した層の割合が20%台後半で推移しています。



参考) 2019 年度から 2023 年度調査経年比較



学生生活基本調査 学修行動 友人と勉強の話をする 学年別・経年



5. まとめと改善案

授業外の学修時間について、今回の 2023 年度調査では、週 1 時間以内を選択した層の割合は全体で 45%、同 3 時間以上を選択した層の割合は同 29%でした。全体的な傾向として、長い学修時間を選択した層の割合は、コロナ禍の 2020 年度を頂点として低下傾向にあるものの、コロナ禍以前よりはやや高いと言えます。

学部別では、1 時間未満を選択した層の割合はスポーツ科学部/現代文化学部が 61%で最も高く、心理学部が 34%と最も低い結果となりました。一方、学修時間が 3 時間以上の割合は、心理学部 38%、メディア情報学部 35%が高く、次いで、法学部・経済経営学部の順でした。

学年別では、1 時間未満を選択した層の割合は、1 年次及び 4 年次が 48%と 2, 3 年次に比べて高く、昨年度以前と同様に、履修科目数が最も多い 1 年次の授業外の学修時間が少ないという結果になりました。学年や授業実施形態に応じて、適切な授業外学習を促すような予習復習、課題の設定等を工夫する余地があるとともに、特に 1 年生に対してはシラバスや Moodle を通じて授業外の学修方法についてわかりやすく説明する必要があるものと思われます。

週当たりアルバイト時間との関連では、2019 年度以前は、学修時間 1 時間未満の割合は、アルバイト時間が増えるにつれて高くなる傾向が続いていましたが、2023 年度調査では、2022 年度調査に比べ、「していない」及び 16 時間以上を選択した層の割合が低下し、「8 時間未満」を選択した者の割合が高くなっています。

2020 年度以降は「していない」を選択した層で割合が高くなる傾向が続いています。また、学修時間 3 時間以上の割合は、2022 年度調査と異なり、アルバイト時間「24 時間以上」が最も低い割合となっています。文部科学省による「全国学生調査」における 1 週間の生活時間の項目では、本学学生は全国に比べ「趣味／娯楽／交友」「スマートフォンの使用」にかかる時間が長いという結果がでており、勉学やアルバイト以外を指向する学生が一定程度いることが示唆されます。

週当たり課外活動頻度との関連では、学修時間 1 時間未満の割合は、課外活動頻度「週 1-2 回」の 37%から「ほぼ毎日」で 66%と課外活動頻度が増えるにつれて高くなる傾向にあります。学修時間 3 時間以上の割合は、課外活動頻度「ほぼ毎日」「ほぼ毎日」以外は大きな差はありませんでした。

学修行動では、前年度に比べ、「できる限り授業に出席する」で 4%、「ノートを取り方を工夫する」で 5%、「当てはまる」を選択した層の割合が低くなりました。

また、「メディアセンターで調べる」「インターネットで調べる」「宿題・課題は必ず提出する」「授業の予習・復習をする」の 4 設問については、前年度とほぼ同様の割合であり、コロナ以前の 3 年に比べ、「当てはまる」を回答した者の割合が高い傾向は続いており。学生の主体的学びが促進されている点において肯定的な効果が得られていることを示唆しています。

「友人と勉強の話をする」について、2020 年度は 1 年次で「当てはまる」を選択した層の割合が 16%と他学年に比べて低かったところ、近 3 年は、3, 4 年次生より高い割合となりました。低学年の段階で「友人と共に学ぶ」環境づくりが出来た結果と考えられます。

以上